

7. 水源地域動態

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れの評価を行う。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等についての評価方針とする。

もう一つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの流れにより評価を行いとりまとめることとする。

作業のフローは図に示すとおりである。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が直接地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価する。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想を持っているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行う。

(6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関する既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

(7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

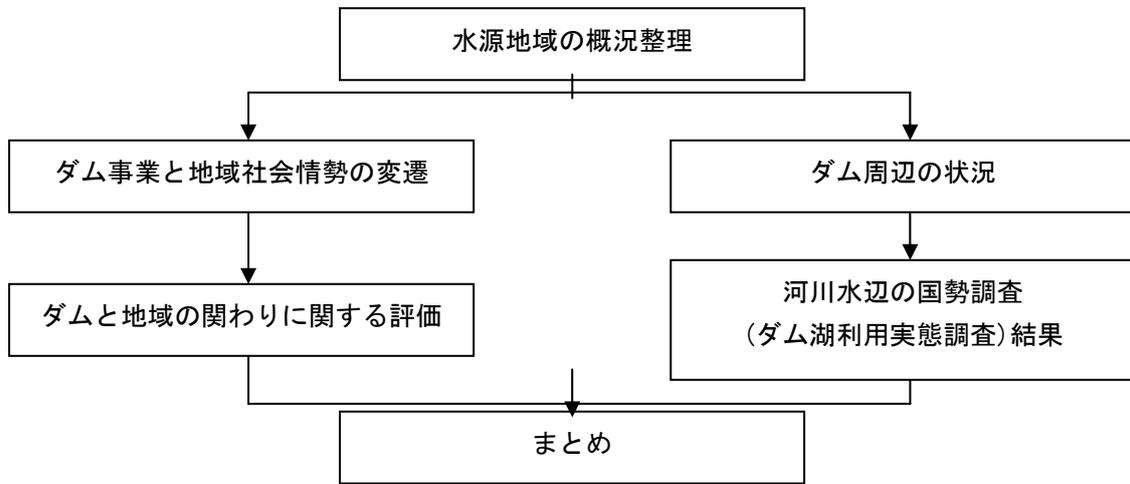


図 7.1.2-1 検討手順

7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

水源地域動態に関わる評価のため、ダム周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、以下の資料を収集整理した。

表 7.1.3-1 水源地域動態に使用した資料リスト

該当箇所		文献・資料名	発行者	発行年月日
7.2 水源地域の概況	図 7.2.1-1 水源地域市村の人口の推移	国勢調査	総務庁	
	図 7.2.1-2 水源地域市村の就業者の推移	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
	図 7.2.1-3 淀川下流側の人口の推移	国勢調査	総務庁	
	(3)土地利用と産業	水源地自治体HP	水源地自治体	
	(4)観光入込み客数	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
	7.2.2 ダムの立地特性	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
	図 7.2.2-1 周辺らの交通網	青蓮寺ダム管理所HP		
7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷	表 7.3-1 ダム事業と地域社会の変化	水源地域自治体資料		
7.4 ダムと地域の関わりに関する評価	7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
	7.4.2 地域とダム管理者の関わり	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
7.5 ダム周辺の状況	7.5.1 ダム周辺整備事業の状況	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
	7.5.2 ダム周辺施設の利用状況	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3
7.6 河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果	(1)水源地域での青蓮寺ダムに対する住民の意識等	平成15年度水源地域(青蓮寺・比奈地)ビジョン検討報告書	財団法人水資源協会	H16.3

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 青蓮寺ダム流域市町村の人口の推移

青蓮寺ダム水源地域は三重県、奈良県の2県に跨り、名張市（三重県）、曾爾村（奈良県）、御杖村（奈良県）の各自治体が立地している。

昭和45年から平成12年間の水源地域の人口推移は、曾爾村、御杖村で減少し続けてマイナスの増減率を表している。

名張市では、昭和45年代頃から大阪都市圏のベッドタウンとして人口が急速に増加し、平成7年には約8万人になった。

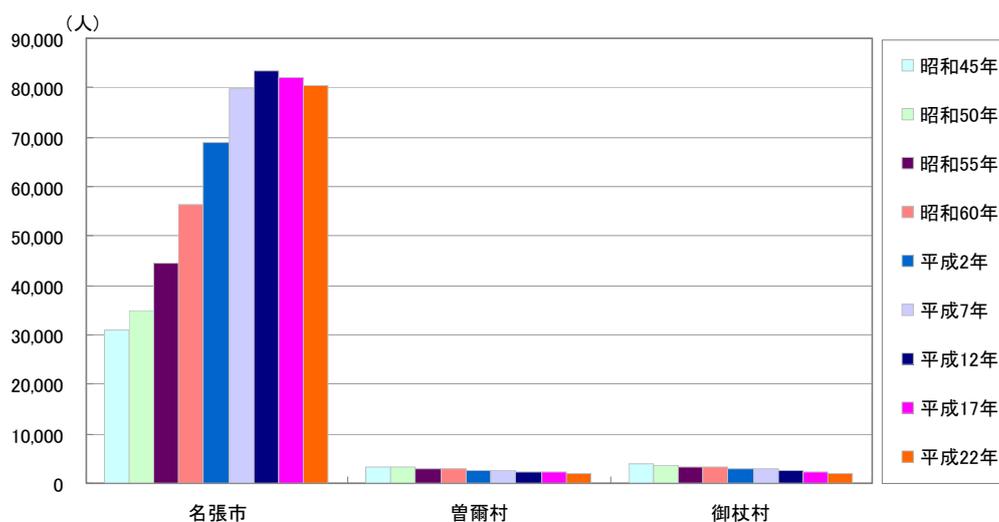


図 7.2.1-1 青蓮寺ダム流域市町村の人口の推移

出典：奈良県統計年鑑、三重県統計書

名張市は就業人口における第三次産業の割合が高く、御杖村では第一次産業の就業人口が大きく減少している。曾爾村では就業人口が全般的に減少している。

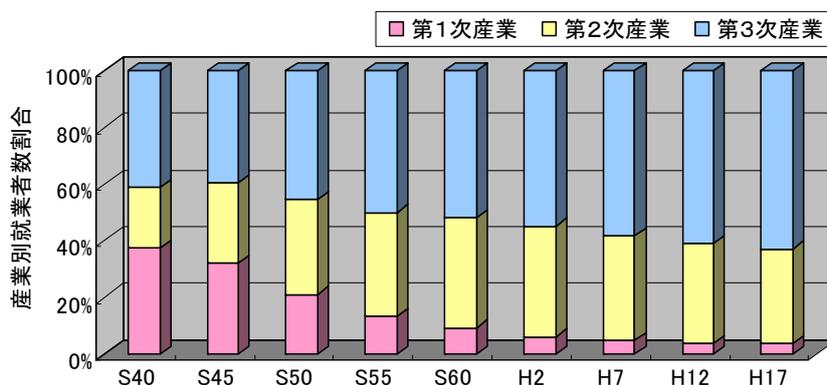


図 7.2.1-2 青蓮寺ダム流域市町村の就業者数割合

出典：奈良県統計年鑑、三重県統計書

(2) 土地利用と産業

青蓮寺ダムの水源地域の土地利用は山林の占める比率が高く、最も下流側に位置する名張市においても50%近くが山林に占められている。

曾爾村、御杖村は比較的標高が高い特性を活かし、高冷地野菜の栽培を行っている。両村に共通した作物はトマト、ホウレンソウである。また、広大な森林面積を活用し、両村とも林業が行われている。

名張市では伝統産業として酒、組紐、伊賀焼がある。

曾爾村では特産品として香落漬、おかめ味噌・玄米味噌・麦味噌、ヤーコンなどがあげられる。

御杖村では特産品として自然薯、しし肉、山菜、わさび、アマゴ、アユなどがあげられる。

(3) 観光入込み客数

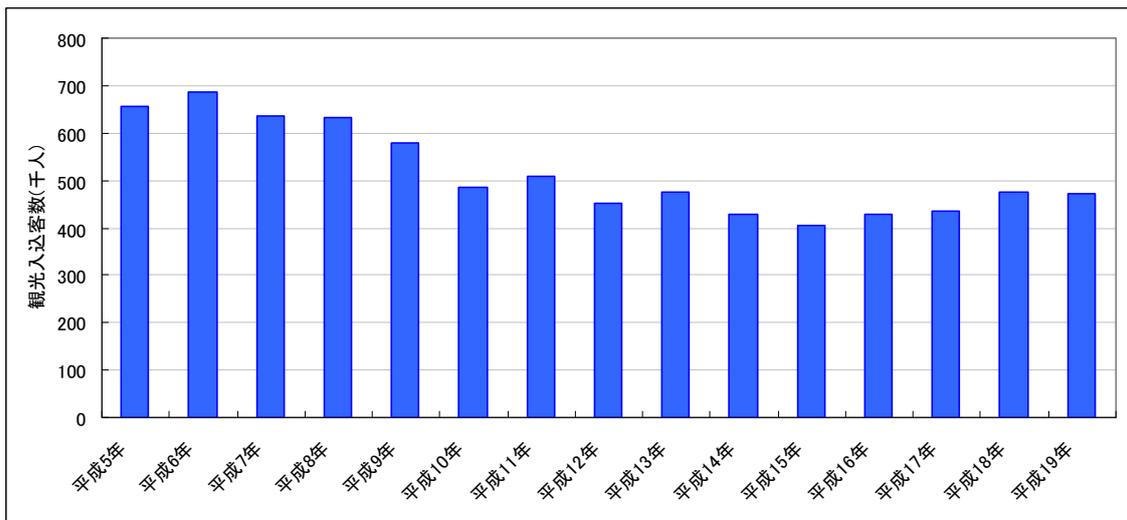
青蓮寺ダム水源地域を構成する自治体の近年の観光入込数を以下に整理した。

名張市には赤目四十八滝をはじめ、様々な観光資源があることから年間40～50万人程度の観光客が訪れている。

曾爾村は、秋のススキが美しい曾爾高原を中心に、年間25～35万人の観光客が訪れている。

(「水源地活性化基礎調査(曾爾村)」より)

御杖村には、年間1.5万人程度の観光客が訪れている。(「'99 御杖村総計資料編」より)



出典：名張市—2002年刊行名張市統計書
—名張市産業振興ビジョン_H21.3

図 7.2.1-3 名張市の観光入込客数

7.2.2 ダムの立地特性

(1) 立地条件



出典：水資源機構 木津川ダム総合管理所HP

図 7.2.2-1 周辺の交通網

- ・青蓮寺ダム水源地域は、名張市市街地の近隣に位置する。
- ・水源地域は、近隣の市町村からアクセスしやすいが、広域的な交通利便性には恵まれていない。
- ・青蓮寺ダム水源地域は、「室生・赤目・青山国定公園」や「三重県立赤目一志峡自然公園」の区域に指定されており、美しい渓谷などの自然景観を有する環境が形成されている。
- ・また、周辺には知名度の高い「赤目四十八滝」や「曾爾高原」などがあり、多くの人々がダム湖に立ち寄ることが期待される。

(2) ダム周辺の観光施設等

青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域周辺には、優れた景観や自然環境、歴史文化を有する様々な観光・レクリエーション施設が点在している。

ダム及びダム湖周辺地域(名張市、曾爾村、御杖村)の主要な観光・レクリエーション施設、文化施設等を表 7.2.2-1 に示す。

表 7.2.2-1 周辺立地施設等一覧

市町村名	施設等名称	施設概要
名張市	赤目四十八滝	・日本の滝 100 選、森林浴の森 100 選に選定されている。延長は約 4 km に及ぶ。
	夏見廃寺跡	・7 世紀末から 8 世紀前半に天武天皇の娘が建立したとされる古代寺院跡。
	名張藤堂家邸跡	・1636 年から明治維新まで、名張に居を構えた藤堂宮内家の屋敷跡。
	青蓮寺観光農園	・ぶどう、いちご狩りが体験できる観光農園。
	名張自然休養村 ロマンの森	・青蓮寺湖畔にある収容定員 350 名のキャンプ場で、バンカロー、テントなどが整備されている。
	香落溪温泉	・青蓮寺湖畔にあり、慢性リウマチ、神経痛などに効果がある。
	観阿弥ふるさと公園	・「観阿弥創座之地」の記念碑が祀られており、毎年 11 月第 1 日曜日に観阿弥まつりが開催される。
	美旗古墳群	・昭和 53 年に国の史跡に指定された、伊賀地方最大規模の古墳群。
曾爾村	曾爾高原	・奈良と三重の県境の俱留尊山から亀山を結ぶ西麓に広がる高原。
	曾爾高原ファームガーデン	・曾爾高原の入口に位置し、レストラン、ビール工場、ハーブガーデンがある。
	サン・ビレッジ曾爾	・曾爾高原を一望でき、コテージ、テニスコート等が整備されたキャンプ場。
	門僕神社	・雄略天皇時代の延喜式の社で、秋祭りでは「曾爾の獅子舞」が見られる。県指定天然記念物の「お葉付イチョウ」がある。
	天王神社の天王杉	・村指定の天然記念物で村内最大の杉。
	屏風岩	・国の天然記念物に指定された高さ 200m で約 1.5 km に及ぶ柱状節理の岩壁。
	済浄坊の滝	・修験行者が水煙大不動明王の霊を仰いだとされる滝。「やまとの水」に選定されている。
御杖村	みつえ青少年旅行村	・バンガロー、テントサイト、遊具等が整備された宿泊施設。
	三季館	・元々は小学校だった宿泊施設。
	御杖神社	・御杖村の名の由来である倭姫伝説が伝わる神社。

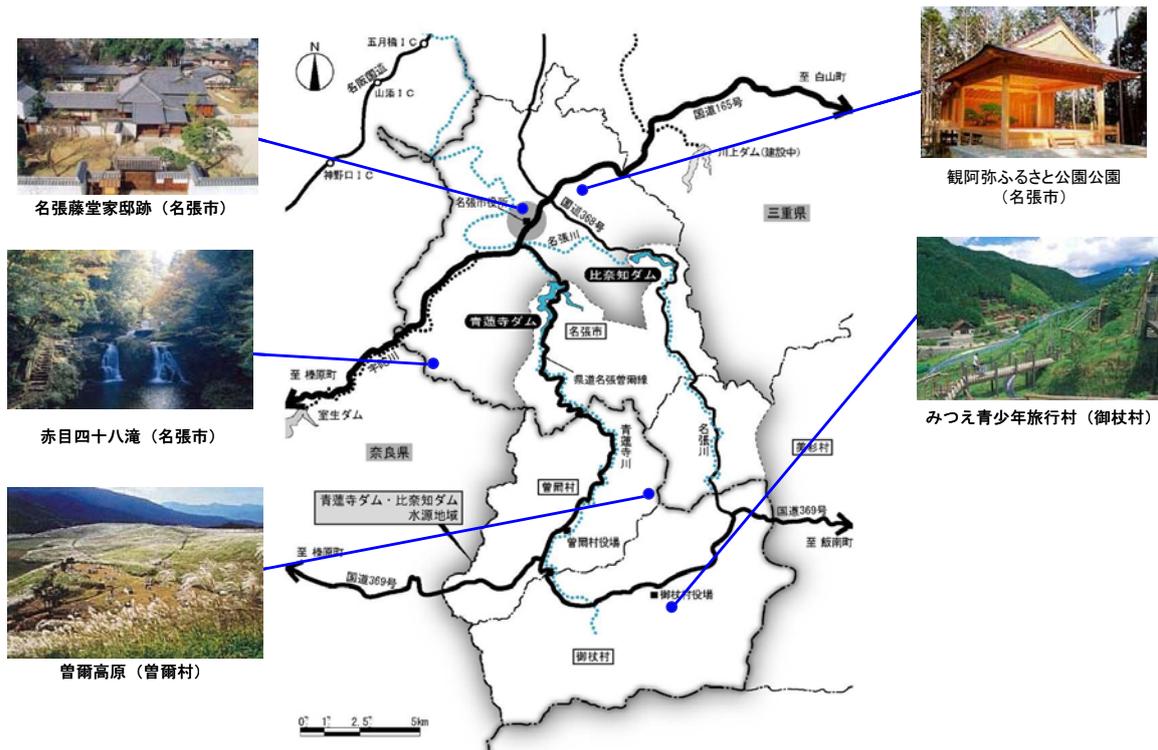


図 7.2.2-2 青蓮寺ダム周辺の観光施設

なお、青蓮寺湖ぶどう狩りの入園者数は、開園から35年経過した平成17年度で累計200万人の入園者数を達成している。

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

青蓮寺ダム事業に関わる地域社会の情勢と変化を年表で整理すると、以下となる。

表7.3-1 ダム事業と地域社会の変化

年代	青蓮寺ダム事業と インフラ整備事業	地域社会の変化		
		名張市	曾爾村	御杖村
昭和29年		名張市誕生		
30年		名張小学校開設		
34年		消防本部開庁		
37年	建設所設置	火葬場完成		
40年	立入調査	上水道供給開始	養蚕事業着手	
41年	補償基準妥結			
	本体工事、仮設備工事、左右岸工事用道路、ダムサイト横断道路、県道付替工事	水没移転家屋32戸 取得用地 宅地:2.0ha 農地:14.9ha 山林:126.6ha		
42年	コンクリート打設		今井林道開通	
44年	試験湛水開始		曾爾村健康グラウンド完成	
			UHF中継局開局	
			室生・赤目・青山国定公園指定	
45年	竣工、管理所発足			
46年			中央公民館竣工	
48年	国道165号全線開通		山粕地区簡易水道竣工	
49年		老人福祉センター開設		みつえ青少年旅行村開設
		特別養護老人ホーム完成		
51年		青蓮寺観光農園		
52年		名張自然休養村ロマンの森		
54年		香落溪温泉		
55年		勤労者福祉会館開館	第五国立曾爾少年自然の家開設	
56年	周辺環境整備事業基本計画策定			
57年		名張公民館完成		
60年		保健センター完成		
63年			絆の里開館	三季館開設
平成元年			上曾爾地区簡易水道施設「浄水場」完成	
4年		郷土資料室オープン		
5年		赤目四十八滝キャンプ場		
7年	国道369号開路トネ開通			
8年			東宇陀クリーンセンター可燃性ゴミ収集開始	
9年		市立病院完成	曾爾村B&G海洋センター完成	
10年			移動通信鉄塔施設開局	

表7.3-1 ダム事業と地域社会の変化-2

年代	青蓮寺ダム事業と インフラ整備事業	地域社会の変化		
		名張市	曾爾村	御杖村
11年			サ・ヒ・レツジ 曾爾開設 曾爾高原ファームガー デン開設	
13年			蛍公園完成	
14年	国道369号バイパス完成			
15年			クラインガルテン曾爾開設	
16年	水源地域ビジョン		お亀の湯開設	みつえ交流館開設 姫石の湯開設



図7.3-1 付替道路等

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

青蓮寺ダムでは比奈知ダムと共に水源地域ビジョンの基本的な事項を定めた「水源地域ビジョン策定要綱」（平成13年4月12日、国土交通省）に沿って、地元住民や関係機関等が共同して「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」を検討し、策定した。

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」は、“青蓮寺ダム、比奈知ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のための行動計画”として、青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域の活性化に向けた基本方針を定め、基本方針の実現のための具体的な方策を、ソフト対策に重点を置いて検討、策定したものである。

具体的施策の策定にあたっての基本的な取り組み内容と考え方を以下に示す。

①美しい自然環境と共生した地域づくり

青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域には、名張川や青蓮寺川等がつくる渓谷や、清らかな水を生み出す水源林、曽爾高原等の変化に富んだ美しい自然環境が形成されている。

これらの美しい自然環境を適切に保全、育成しつつ、適切に自然環境の活用を図ることで、自然環境と共生した地域づくりを推進する。

②自立した個性ある地域づくり

水源地域の活性化のためには、水源地域に暮らす人々自らの手で水源地域が持つ魅力に磨きをかけ、水源地域のポテンシャルを向上させていくことが必要である。

そこで、地域づくりを進めていく上で重要な「人材の育成」を図りつつ、水源地域の持つ魅力を活かした特色ある地域の形成を目指すことで、自立した個性ある地域づくりを推進する。

③多様な地域との交流による地域づくり

地域活性化のためには、水源地域の自治体や関係諸団体、地域住民等が、相互に協力、連携しながら、協働して様々な取り組みを進めていくことが必要である。

また、淀川流域の支流で名張川流域の源流にあたる当該地域は、この地域から生み出される水資源を通じて下流の広い地域と密接につながっていることから、流域における関係者の水源地域に対する適切な理解のもとでの協力、連携によって、取り組みを進めていくことも必要である。

そこで、地域内での交流を促進するとともに、水源地域のPRによって名張川流域や淀川流域等での上下流交流を促進し、多様な地域との交流による地域づくりを推進する。

7.4.2 地域とダム管理者の関わり

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」の検討・策定は、以下に示す関係諸機関によって構成される「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議」によって行った。なお、同組織は規約等を設けない緩やかな組織として検討、策定にあたった。

- 学識経験者 …………… 大学助教授
- 水源地域自治体 …………… 名張市、曾爾村、御杖村、美杉村
- 水源地域住民代表 …………… 名張市区長会会長
曾爾村総代会会長
御杖村区長会代表
美杉村住民
- 関係団体 …………… 伊賀森林組合
名張川漁業協同組合
青蓮寺香落漁業協同組合
長瀬太郎生川漁業協同組合
名張商工会議所
曾爾村商工会
曾爾村森林組合
曾爾村漁業協同組合
御杖村森林組合
御杖村商工会
御杖村漁業組合
美杉村太郎生住民センター
川の会・名張
わさびの会
- ダム管理者 …………… 独立行政法人水資源機構

〈オブザーバー〉

- 国土交通省 …………… 近畿地方整備局 河川部河川管理課
木津川上流河川事務所
淀川ダム統合管理事務所
- 三重県 …………… 地域振興部 県土・水資源・流域圏推進チーム
- 奈良県 …………… 企画部 資源調整課

「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議」は、下表に示すように連絡会3回（9月29日、12月5日、1月28日）、策定会議1回（2月25日）を開催した。この間に、水源地域住民を対象にしたアンケート調査や、連絡会メンバーへのアンケート調査、水源地域自治体への聞き取り調査などを実施し、その結果を踏まえて議論を重ね、2月25日の策定会議において「青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン」を策定した。

表 7.4.2-1 青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョンの策定経緯

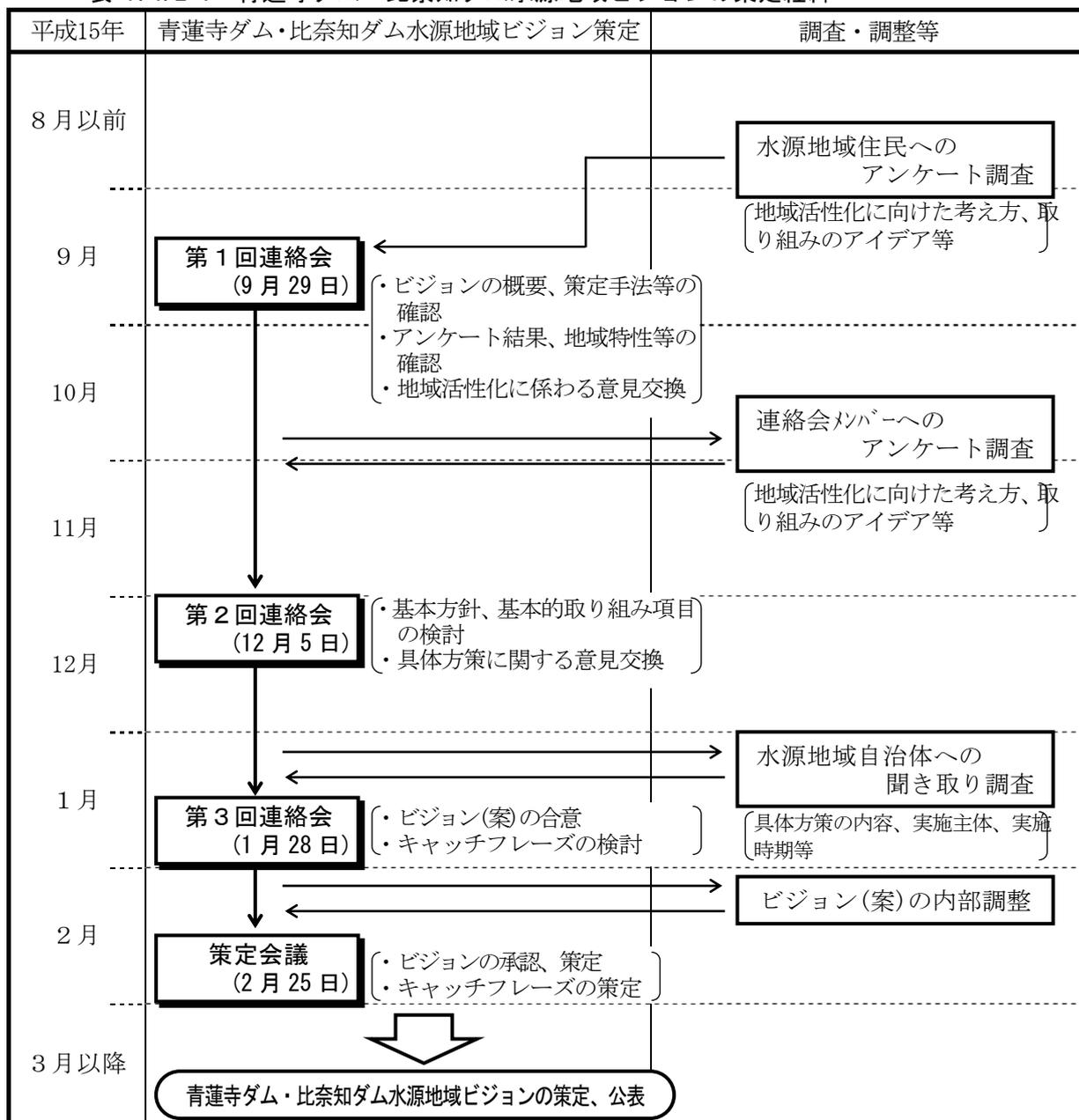
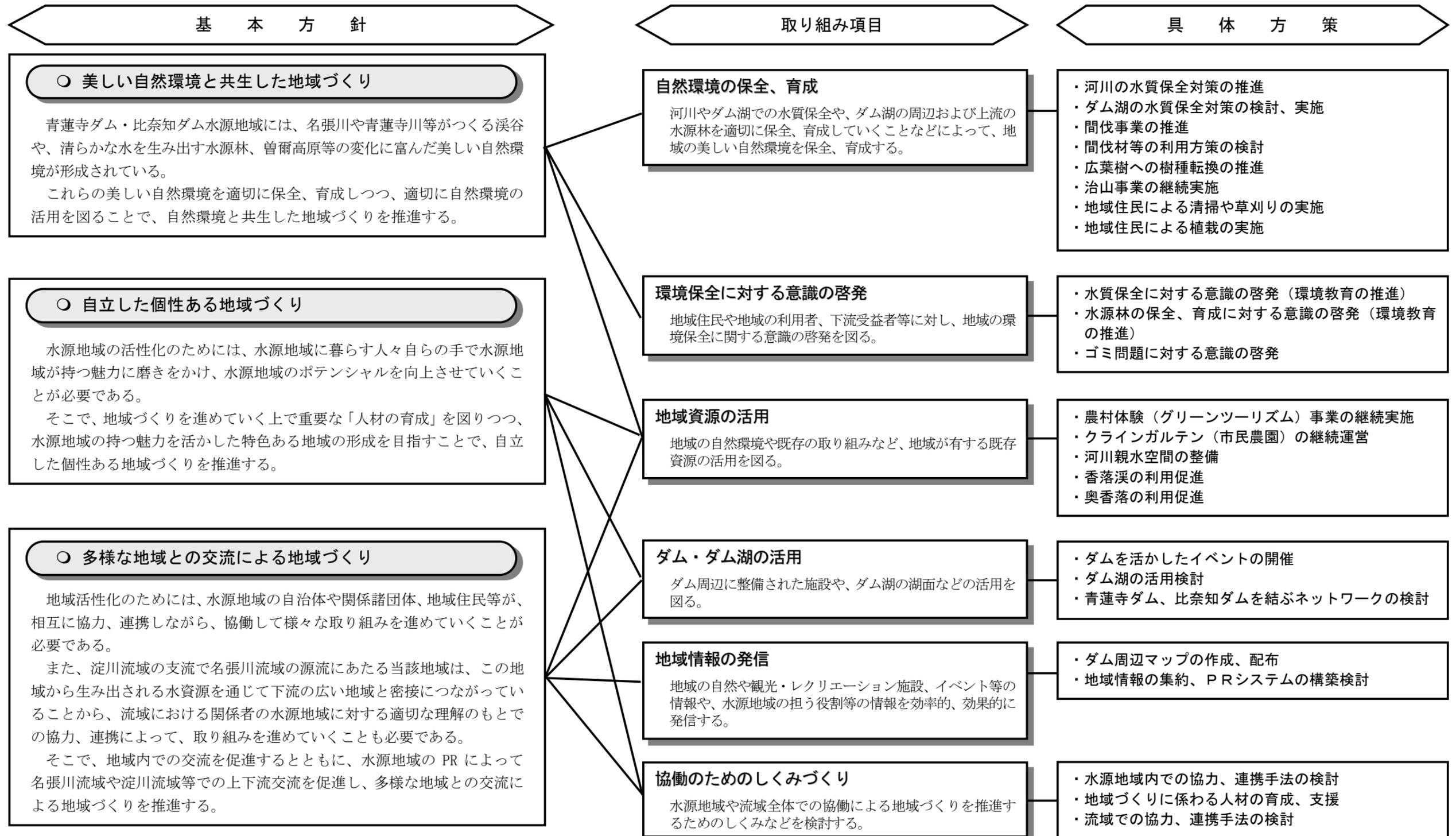


表 7.4.2-2 青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域ビジョン策定会議のメンバー一覧
(平成16年2月25日現在)

構成機関	策定会議	連絡会
学識経験者	大学助教授	大学助教授
水源地域自治体		
名張市	市長	企画財政政策室長
曾爾村	村長	村づくり推進課長
御杖村	村長	地域振興課長
美杉村	村長	総務課長
水源地域住民代表		
名張市住民	—	名張市区長会会長
曾爾村住民	—	曾爾村総代会長
御杖村住民	—	御杖村区長会代表
美杉村住民	—	
関係団体等		
伊賀森林組合	—	組合長
名張川漁業協同組合	—	組合長
青蓮寺香落漁業協同組合	—	組合長
長瀬太郎生川漁業協同組合	—	組合長
名張商工会議所	—	会 頭
曾爾村商工会	—	会 長
曾爾村森林組合	—	組合長
曾爾村漁業協同組合	—	組合長
御杖村森林組合	—	理事長
御杖村商工会	—	会 長
御杖村漁業組合	—	組合長
美杉村太郎生住民センター	—	所 長
川の会・名張	—	事務局
わさびの会	—	会 長
ダム管理者		
水資源機構 関西支社	支社長	利水者サービス課長
水資源機構 木津川ダム総合管理所	所長	管理課長 青蓮寺ダム管理所長 比奈知ダム管理所長
国土交通省		
近畿地方整備局 河川部河川管理課	河川管理課長	河川管理課課長補佐
木津川上流河川事務所	所長	課長
淀川ダム統合管理事務所	所長	課長
三重県		
地域振興部	部長	主幹
奈良県		
企画部資源調整課	課長	主査

〈キャッチフレーズ〉

地域を越えてつなげよう 木津川をうるおす水いづる郷



7.4.3 水源地域ビジョンの活動状況

■実行連絡会の実施状況

以下に、青蓮寺ダム水源地域ビジョン実行廉価委の状況を示す。

表 7.4.3-1 実行連絡会の実施状況

年度	日時	内容
平成18年度	7月25日	各団体の平成17年度の取り組み等の報告、及び、18年度のイベント当実施予定。その他意見交換。
平成19年度	11月27日	情報交換を深め、流域内での連携、上下流交流促進のためのしくみづくりを検討する分科会を設立し、意見交換を行う。年間の節目に2～3回程度意見交換会を開催する。 ① 水源地域内での協力、連携手法の検討(水源地域自治体) ② 地域づくりに関わる人材の育成(水源地域自治体、NPO等) ③ 流域での協力、連携手法の検討(関係自治体、水機構、県、国交省)
平成20年度	8月8日	情報交換を含め、流域内での連携、上下流交流促進のためのしくみづくりを検討する文科会を設立し、意見交換を行う。年間の節目に2～3回程度の意見交換会を開催する。 ① 水源地域内での協力、連携手法の検討(水源地域自治体) ② 地域づくりに関わる人材の育成(水源地域自治体、NPO等) ③ 流域での協力、連携手法の検討(関係自治体、水機構、県、国交省)
平成21年度	8月27日	情報交換を含め、流域内での連携、上下流交流促進のためのしくみづくりを検討する文科会を設立し、意見交換を行う。 ① 水源地域内での協力、連携手法の検討(水源地域自治体) ② 地域づくりに関わる人材の育成(水源地域自治体、NPO等) ③ 流域での協力、連携手法の検討(関係自治体、水機構、県、国交省)
平成22年度	8月24日	情報交換を含め、流域内での連携、上下流交流促進のためのしくみづくりを検討する文科会を設立し、意見交換を行う。 ① 水源地域内での協力、連携手法の検討(水源地域自治体) ② 地域づくりに関わる人材の育成(水源地域自治体、NPO等) ③ 流域での協力、連携手法の検討(関係自治体、水機構、県、国交省)



図 7.4.3-1 実行連絡会開催状況(H18年度)

■管理者の地域に向けた活動等

青蓮寺ダム管理所では、地域に対しダム見学会等を開催し、ダムの働きや仕組みについて知ってもらふ活動を行っている。

平成18年から平成22年の見学会実施状況一覧を、表 7.4.3-2に示す。

表 7.4.3-2 見学会等実施状況(H18~H22)

年	開催日	団体名・参加人数等	活動内容
平成18年	6月1日	淀川ダム統括管理所 6名	パンフレット及び操作室にて説明を行った。
	7月16日	国立曾爾青少年自然の家(曾爾レンジャークラブ) 39名	パワーポイントによる青蓮寺ダムの概要説明及び堤体上並びに操作室での説明を行った。
	7月25日	三重県企業庁 3名	パワーポイントによる青蓮寺ダムの概要説明及び操作室での説明並びにゲート等現場設備案内を行った。
	8月24日	三瀬谷発電所 一般(身体障害者) 3名	パンフレット及び操作室でダムの説明を行った。
平成19年	5月29日	名張市立南中学校1年生 108名	左岸広場でのパネル展示及び操作室でダムの概要を説明。
	6月5日	東海及び近畿農政局 9名	PPTIによるダム概要及び操作室での管理状況を説明。
	7月29日	名張市立南中学校1年生 3名	操作室にてパンフを用いて概要説明。現地案内としてバルブ室と監査廊案内。貯水池案内として船にてダム湖面を案内。
	8月7日	伊賀市民 2名	操作室にてパンフを用いて概要説明。現地案内としてバルブ室と監査廊案内。貯水池案内として船にてダム湖面を案内。
	8月13日	津市民 4名	操作室にてパンフを用いて概要説明。現地案内としてバルブ室と監査廊案内。貯水池案内として船にてダム湖面を案内。
	8月20日	名張市民すずらん台在住 3名	昇降設備(ドルフィン号)からゲートを見ながら、洪水時の対応を説明。
	8月21日	名張市立南中学校1年生 2名	パンフレットでダムの目的等を説明。操作室の設備を案内。
	8月23日	名張市立南中学校1年生 2名	パンフレットでダムの目的等を説明。ダム直下から放流設備を説明。
	5月16日	名張市立南中学校1年生 多数	操作室にてパンフを用いて概要説明。
	5月29日	名張市立南中学校1年生 108名	左岸広場でのパネル展示及び操作室でダムの概要を説明。
平成20年	6月5日	東海及び近畿農政局 9名	PPTIによるダム概要及び操作室での管理状況を説明。
	7月29日	名張市立南中学校1年生 3名	操作室にてパンフを用いて概要説明。現地案内としてダム下流面を案内。貯水池案内として船にてダム湖面を案内。
	8月4日	名張市立南中学校1年生 4名	夏休みの宿題
	8月7日	伊賀市民 2名	操作室にてパンフを用いて概要説明。現地案内としてダム下流面を案内。貯水池案内として船にてダム湖面を案内。
	8月13日	津市民 4名	操作室にてパンフを用いて概要説明。現地案内としてダム下流面を案内。貯水池案内として船にてダム湖面を案内。
	8月20日	名張市民すずらん台在住 3名	昇降設備(ドルフィン号)からゲートを見ながら、洪水時の対応を説明。
	8月21日	名張市立南中学校1年生 2名	パンフレットでダムの目的等を説明。操作室の設備を案内。
	8月23日	名張市立南中学校1、3年 2名	パンフレットでダムの目的等を説明。ダム直下から放流設備を説明。
	5月15日	名張市立南中学校1年生 116名	左岸広場でダム概要を説明。操作室でゲート・機器等を説明。
	6月19日	奈良県立五條高校1年生 42名	説明ホールでダム概要を説明。ダム監査廊で機器等を説明。
平成21年	7月31日	一般見学者 5名	右岸堤頂でダム概要を説明。洪水吐きゲート室横でバルブ・ゲート等を説明。
	11月5日	木津川を美しくする会 32名	説明ホールでダム概要を説明。右岸堤頂でダム概要を説明。
	12月3日	ダムマニア 1名	操作室でダム概要を説明。管理所ベランダからダム下流の写真撮影など。
	6月11日	三瀬谷発電所 4名	○青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ○操作室(青蓮寺ダム概要説明)
平成22年	7月6日	JICA(ベトナム) 15名	○青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ○操作室(防災態勢等説明)
	7月7日	利水者施設見学会 24名	○青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ○操作室(防災態勢等説明)
	8月3日	新宮ダム視察 2名	・青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ・操作室
	9月22日	大阪府水道部 14名	○青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ○操作室(防災態勢等説明)
	10月14日	つづじが丘歩こう会 13名	ダム概要説明 操作室説明 ダム右岸天端記念撮影
	10月19日	精華町見学会 17名	概要説明、操作室説明 青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ゲート室
	11月10日	木曽用水利水者見学 25名	・ダム右岸天端 ・ダム概要説明
	12月10日	東播土地改良区視察 19名	概要説明、操作室説明 ・青蓮寺ダムキャットウォーク(ゲート設備の説明) ゲート室

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺環境整備事業の状況

青蓮寺湖は地域住民の方々に親しまれ、春の新緑、秋の紅葉、夏はキャンプとぶどう狩り等、四季を通じて多くの人々が訪れている。

これらを利用する人々の安全対策に講じ、ダム周辺を緑化整備することにより、好ましい貯水池環境を創造して、水と緑の豊かなオープンスペースの提供を図るためにダム湖周辺環境整備事業が昭和55年に採択され、国土交通省の事業として昭和56年から平成4年にかけて実施された。

6地区の整備がなされており、維持管理は協定に基づき名張市が実施している。

青蓮寺ダム貯水池周辺には、周辺環境整備事業等によって様々なレクリエーション施設が整備されている。

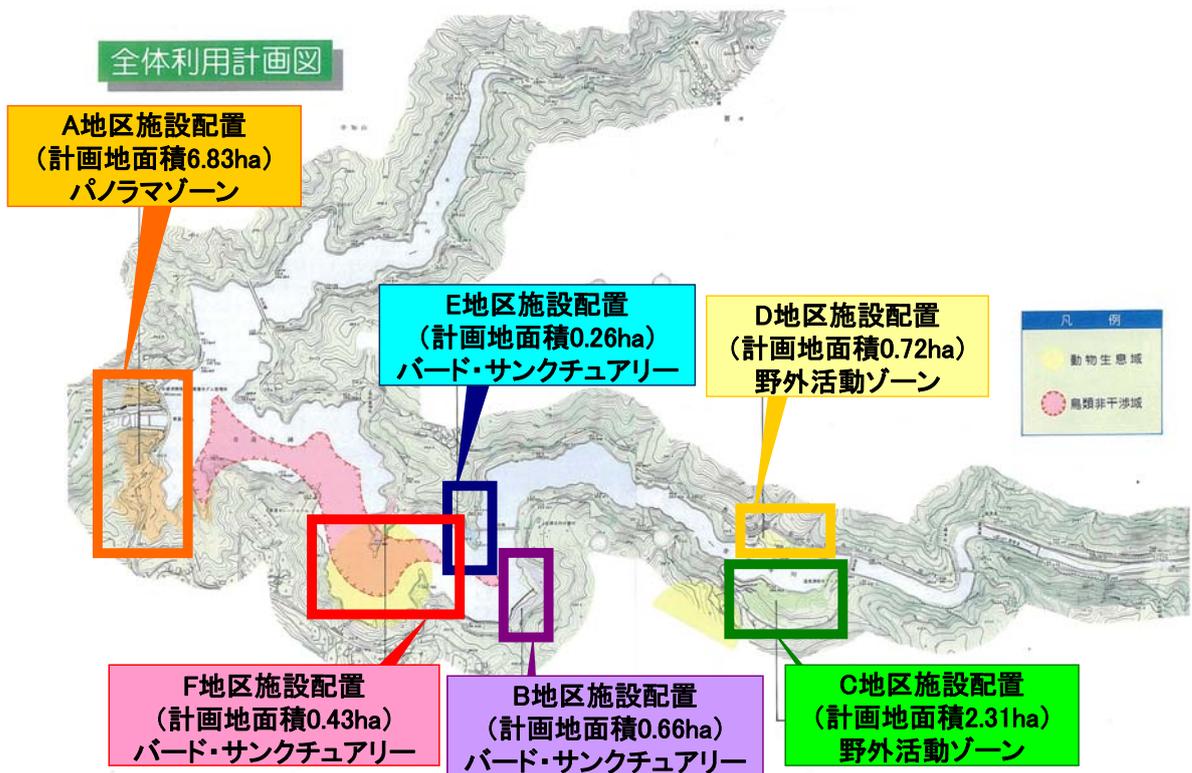


図 7.5.1-1 青蓮寺ダム周辺整備施設等位置図

<p>●A地区(パノラマゾーン)</p> <p>景勝地香落溪、青蓮寺湖、青蓮寺ダムを一望に見渡せる展望広場をメインとし、森林浴を楽しめる遊歩道、野鳥の声を聞きながらの休憩施設等が整備されています。</p> <p>○駐車可能台数 約15台</p> <p>○トイレ無し(近くにぶどう組合の施設有)</p>	
<p>●B地区(バード・サンクチュアリー)</p> <p>水辺を生かした植物を植え、老人から子供までが自然に親しみバードウォッチング等が楽しめる湖畔の散策公園が整備されています。</p> <p>○駐車可能台数 約18台(3箇所)</p> <p>○トイレ有り</p>	
<p>●C地区(野外活動ゾーン)</p> <p>家族連れや青少年の仲間達が共に自然の中のレクリエーションを楽しめるように、湖畔に運動広場が整備されています。</p> <p>○駐車可能台数 約15台</p> <p>○トイレ有り</p>	
<p>●D地区(野外活動ゾーン)</p> <p>景勝地香落溪の出入り口にあたり、ドライブ・サイクリング・ハイキング等で訪れる人々の憩いの場とし、小鳥の浮かぶ水辺には魚釣が楽しめる場所として整備されています。</p> <p>○駐車可能台数 約5台</p> <p>○トイレ無し</p>	
<p>●E地区(バード・サンクチュアリー)</p> <p>青蓮寺橋のたもと、ダム湖の左右岸と香落溪を結ぶ分岐点にあたり、湖面に突き出た岬からの眺望も楽しめる場所として整備されています。</p> <p>○駐車場、トイレ無し</p>	
<p>●F地区(バード・サンクチュアリー)</p> <p>湖面の中央に長く突き出た岬の遊歩道から、青く澄んだ湖面に映える四方の山腹の眺めを楽しめる憩いの場で、野鳥の保護、繁殖も兼ねた実のなる木を主として植えられています。</p> <p>○駐車場、トイレ無し</p>	

出典：水資源機構 木津川ダム総合管理所 HP

<その他の観光施設（青蓮寺ダム湖周辺）>

青蓮寺ダム貯水池周辺には、宿泊滞在施設や観光レクリエーション施設等が整備されている。

- ・青蓮寺レークホテル
- ・名張自然休養村ロマンの森
- ・青蓮寺湖観光村

貯水池を望む湖畔に立地する宿泊施設バンガローもある森の中のキャンプ場ぶどう狩り等が楽しめる観光農園群

■ 青蓮寺レークホテル



■ 名張自然休養村ロマンの森



■ 青蓮寺湖観光村



青蓮寺湖観光村入口



青蓮寺湖観光村の案内板

7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

(1) 利用者数の推移

青蓮寺ダム周辺施設及び観光施設入込み数の推移は、平成21年度の年間利用者数は5万8千人と推計される(平成6年度:13万3千人、平成9年度:17万2千人、平成12年13万人、平成15年度:7万8千人、平成18年度:7万6千人)。

利用形態別のダム湖利用状況の年間推計値によると、「釣り」、「散策」の利用形態が多く、それを反映して湖面と湖岸の利用者が多くなっている。

以上から、青蓮寺ダムでは湖岸を散策する利用者が多く、湖面も有効に活用されていると考えられる。

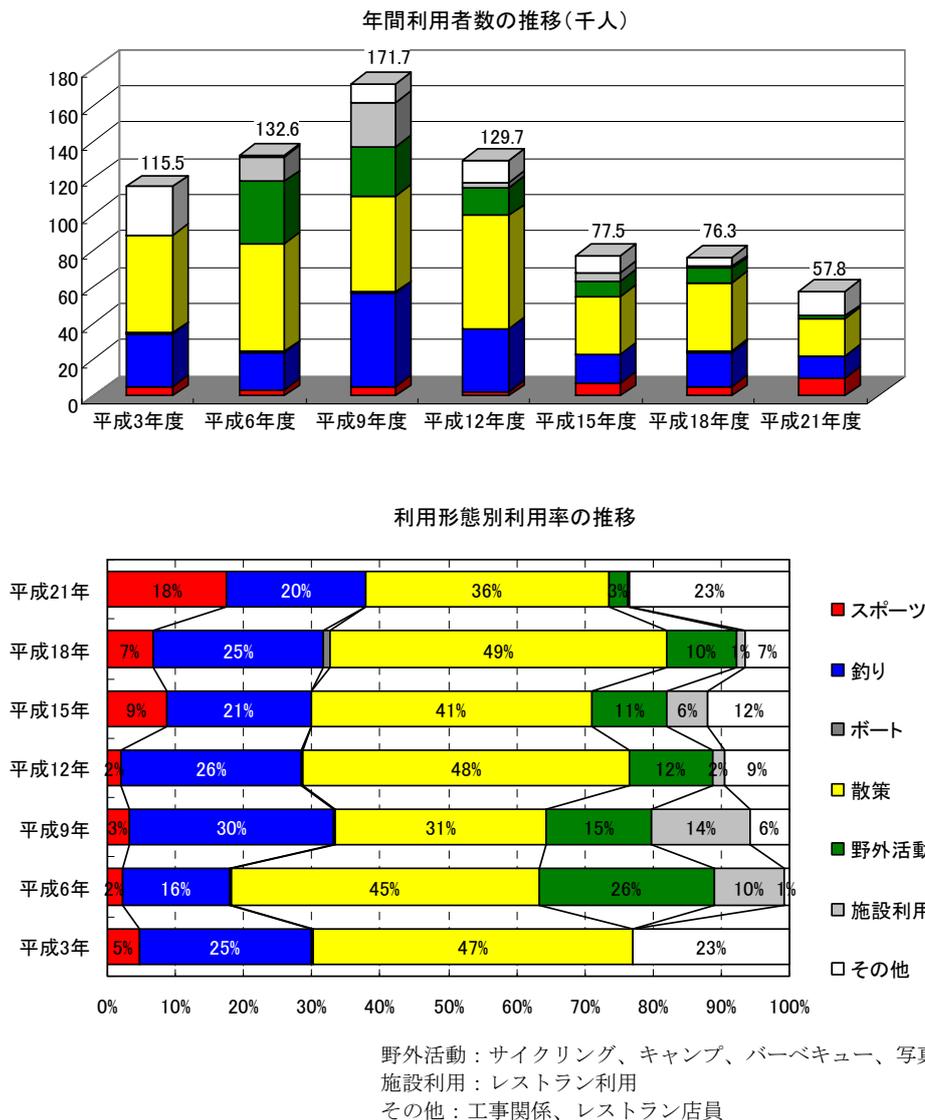


図 7.5.2-1 年間ダム湖利用状況

出典：ダム湖利用実態調査

また、C地区に整備されているテニスコートの入場者数は年間約5,000人程度の入場者数となっている。

(2) 利用者の満足度

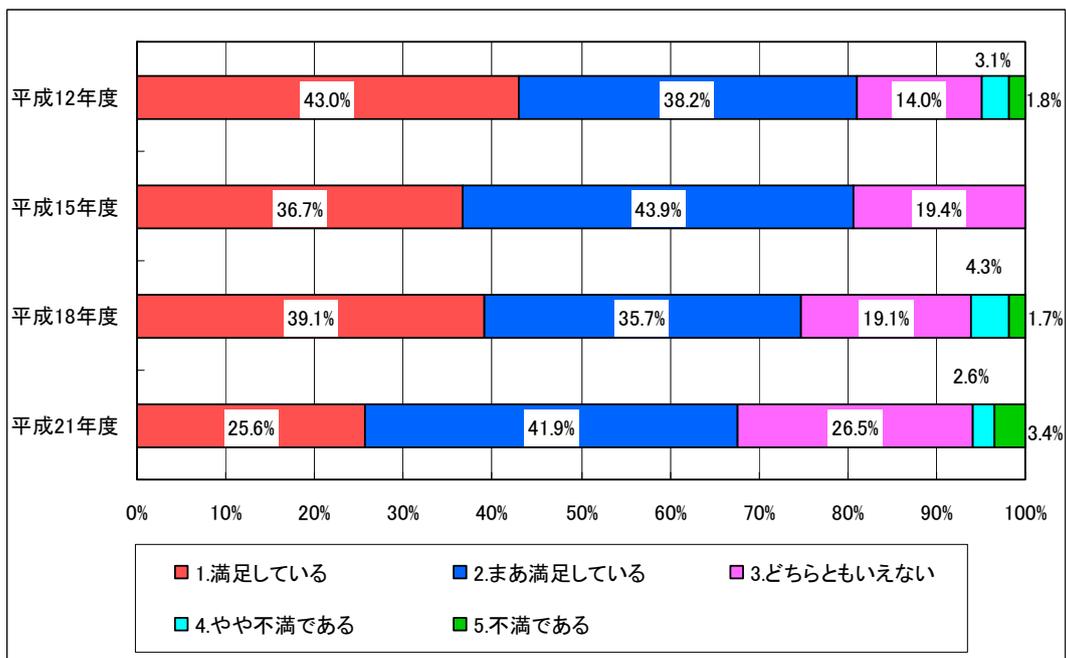
「ダム湖利用実態調査」では、来訪者に対してアンケートを行い、ダム・ダム湖に対する満足度について以下に示す5段階による回答を求めている。

1. 満足している
2. まあ満足している
3. どちらともいえない
4. やや不満である
5. 不満である

以下に、上記アンケート結果による青蓮寺ダムの利用者の満足度を整理する。

■ アンケート結果

	1.満足している	2.まあ満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	有効回答数
平成21年度	25.64%	41.88%	26.50%	2.56%	3.42%	117(100%)
平成18年度	39.13%	35.65%	19.13%	4.35%	1.74%	115(100%)
平成15年度	36.73%	43.88%	19.39%	0.00%	0.00%	98(100%)
平成12年度	43.00%	38.20%	14.00%	3.10%	1.80%	228(100%)



以上のように、平成12年の調査では8割の人が「満足」「まあ満足」と回答したのに対し、平成21年の調査では7割弱となっている。これはレジャー等の目的を持たず、休息等のために利用する人が増えたため、施設の満足度を評価できない場合が増えたためと考えられる。

「不満」、「やや不満」が全体の5%であることから、利用者は青蓮寺ダムを観光・レクリエーションの場として概ね満足していることが伺える。

7.5.3 ダム及び周辺のイベント等の開催状況

青蓮寺ダム周辺では、ダムやダム湖、湖周道路等を活用して様々なイベントが開催されている。以下にその開催概要を整理する。

表 7.5.3-1 青蓮寺ダム周辺でのイベント等開催状況（平成18年～22年開催実績）

開催期間	行事等名	開催場所	主催者	参加人数	内容等
H18 4月29日 8時30分 ～ 14時30分	ちょいおし体験 (名張の魅力再認識して)	青蓮寺ダム湖周辺 (幻の行者不動滝)	名張市 観光協会	29名	地元名士の「自然の花博物館」山口繁一館長の案内で、名張市の景勝地である青蓮寺湖畔から香落溪に咲く初夏の花を楽しみながら、幻の行者不動滝まで約8Kmの道程を散策したハイキングである
H18 6月4日 9時00分 ～ 11時30分	青蓮寺湖クリーン ハイキング	青蓮寺ダム湖周辺	名張市	300名	名張市の景勝地である青蓮寺ダム湖の景観保全を目的とした市民参加型のクリーンハイキングで、環境行事の一環としてダム湖周辺の新緑を眺めながらのゴミ拾いをおこなったものである。収集したゴミは分別し、名張市において処理を行った。
H18 11月26日 9時00分 ～ 13時30分	第15回青蓮寺区収穫祭 (野菜収穫祭りと豚汁の会)	名張市中村 (百合が丘団地下の田圃)	青蓮寺区 (山口繁一)	約40名	市民による手作り野菜コンテスト、豚汁の試食など、15年継続して実施され地元で根付いた行事として開催されているもので、晩秋の一日を堪能したものである。
H18 12月3日 11時00分 ～ 14時00分	箕輪文化祭	箕輪小学校	箕輪公民館	多数	毎年この時期に開催されている文化祭で、幼児から老人までの幅広い作品展示やカラオケ大会などが催されている地域に根付いている行事である。
H19 2月25日 9時00分 ～ 14時00分	第21回名張青蓮寺湖 駅伝競走大会	名張市 青蓮寺ダム湖	名張市 ※協賛:水資源 機構・青蓮寺レ ークホテル	292名 ※走者	毎年恒例の駅伝競走大会で、男子(20.4km)、女子(13.2km)をリレーするものである。今回は、機構より精鋭3チームが参加し、大会を盛り上げた。※男子42・女子8チーム
H19 4月22日	タケノコと草餅 の会	ダム左岸青蓮寺 地区内	青蓮寺地区	約200 名	青蓮寺区に根付いて18年目を数える名物行事。地元を始めとした市民約200人今日が集い盛大に春の味覚を楽しむイベント。
H19 5月28日	青蓮寺川清掃	青蓮寺川	青蓮寺川香落 漁業協同組合	約30名	青蓮寺川での鮎釣り解禁となる6月3日を前に河川清掃を行い、環境美化に努める行事である。
H19 6月3日 9時00分～ 11時30分	青蓮寺湖クリーン ハイキング	青蓮寺ダム湖周辺	名張市	多数	名張市の景勝地である青蓮寺ダム湖の景観保全を目的とした市民参加型のクリーンハイキングで、環境行事の一環としてダム湖周辺の新緑を眺めながらのゴミ拾いを行ったものである。収集したゴミは、分別し名張市において処理を行った。
H19 8月29日 ～ 8月30日	そに自然体験同 上	青蓮寺ダム上流 右岸親水広場	国立曾爾青少 年自然の家	40名	国立曾爾青少年自然の家企画事業【そに自然体験道場】の一環として、青蓮寺ダム上流右岸の親水広場にて手作り筏やカヌーなどによる湖水上での自然学習が催された。青蓮寺ダムは、巡視艇乗船による湖上探検に協力。
H19 11月11日 & 12月15日	チョット変わった 里山づくり	青蓮寺地区内の 山	青蓮寺地区	延べ 約100 名	青蓮寺区にある、山を昔の風景に戻す「里山づくり」として間伐作業や下草刈りなど、3年計画として地元の里山づくりが始められた。青蓮寺ダムは、地域の方にダム管理の協力等に積極的にPRするとともに地域交流を深めた。

表 7.5.3-1 青蓮寺ダム周辺でのイベント等開催状況（平成18年～22年開催実績）

開催期間	行事等名	開催場所	主催者	参加人数	内容等
H19 11月23日	青蓮寺区収穫祭・野菜収穫祭りと豚汁の会	名張市中村（百合ヶ丘団地下の田圃）	青蓮寺区	約50名	市民農園による手作り野菜の品評会、大根の大きさ比べ、大根のかずら剥き競争、うずら豆の箸使い等のコンテスト及び婦人達による豚汁の試食が振る舞われ、晩秋の一日を堪能した収穫祭。16年継続し地元で根付いた行事として開催されている。
H19 12月1日 ～ 12月2日	平成19年度箕曲文化祭	箕曲小学校	箕曲公民館	多数	毎年この時期に開催されている文化祭で、幼稚園から老人会まで幅広い作品展示会が行われている。この中で、地元青蓮寺区山口繁一氏が「ふるさとの花ササユリの発芽から成育の写真も展示された。その他にカラオケ大会なども催され地域に根付いた行事である。
H20 4月20日	タケノコと草餅の会	ダム左岸青蓮寺地区内	青蓮寺地区	多数	青蓮寺区に根付いて19年目を数える名物行事。地元を始めとした市民多数が集い盛大に春の味覚を楽しむイベント。
H20 6月1日	青蓮寺湖クリーン大作戦	青蓮寺ダム湖周辺	名張市	多数	毎年名張市全域で開催される名張クリーン大作戦に参加し、水源環境保全のため清掃活動を実施している。収集したゴミは、分別し名張市において処理を行った。
H20 7月19日 ～ 7月20日	曾爾自然体験道場	青蓮寺ダム上流右岸親水広場	国立曾爾青少年自然の家	50名	国立曾爾青少年自然の家企画事業【そに自然体験道場】の一環として、青蓮寺ダム上流右岸の親水広場にて手作り筏やカヌーなどによる湖水上での自然学習が催された。青蓮寺ダムは、巡視艇乗船による湖上探検に協力。
H20 8月1日 ～ 8月10日	夢冒険真夏にチャレンジ	青蓮寺ダム湖周辺	国立曾爾青少年自然の家	多数	秘密基地作り、山と湖の大冒険と称し自然学習会
H20 8月24日 9時30分 ～ 16時00分	流木一般配布	青蓮寺ダム湖左岸	青蓮寺ダム管理所	45家族	台風等による出水によりダム湖内へ漂着した流木を薪に裁断して、一般配布を行った。
H20 8月30日	クリーンキャンペーン in 青蓮寺湖	青蓮寺ダム湖周辺	コスモ石油	多数	清掃活動・ぶどう狩り
H20 10月5日	いも掘り大会	ぶどう教室実習室	箕曲公民館	多数	いも掘り大会（さつまいも）
H20 11月9日 & 12月13日	チョット変わった里山づくり	青蓮寺地区内の山	青蓮寺地区	多数	青蓮寺区にある、山を昔の風景に戻す「里山づくり」として間伐作業や下草刈りなど、3年計画として地元の里山づくりが始められた。青蓮寺ダムは、地域の方にダム管理の協力等に積極的にPRするとともに地域交流を深めた。
H20 11月23日	青蓮寺区収穫祭・野菜収穫祭りと豚汁の会	名張市中村（百合ヶ丘団地下の田圃）	青蓮寺区	多数	市民農園による手作り野菜の品評会、大根の大きさ比べ、大根のかずら剥き競争、うずら豆の箸使い等のコンテスト及び婦人達による豚汁の試食が振る舞われ、晩秋の一日を堪能した収穫祭。17年連続し地元で根付いた行事として開催されている。
H21 2月10日	名張高校マラソン	ダム周辺	名張高校	多数	名張高校によるマラソン大会
H21 3月8日 8時30分 ～ 13時30分	名張青蓮寺湖駅伝競走大会	ダム周辺	名張市青蓮寺駅伝競走大会実行委員会	600人	毎年恒例のマラソン大会で、青蓮寺湖周辺道路で実施し、男子の部、女子の、混成の部が設けられている。

表 7.5.3-1 青蓮寺ダム周辺でのイベント等開催状況（平成18年～22年開催実績）

開催期間	行事等名	開催場所	主催者	参加人数	内容等
H21 4月19日	タケノコと草餅の会	青蓮寺ぶどう農園	青蓮寺地区	200名	恒例の19年続く名物行事「タケノコと草餅の会」が開かれて、約200名の参加があった。
H21 4月26日	しいたけ作り	青蓮寺ぶどう農園よこの里山	青蓮寺地区	30名	昨年しいたけの菌打ちされた木を山の斜面に立てかけて整備した。その後個人の持ち分を決めて名札を貼り付けし、約30名の参加があった。
H21 5月17日	名張クリーン大作戦	青蓮寺ダム湖周辺	名張クリーン大作戦2009実行委員会	6400名	毎年名張市全域で開催される名張クリーン大作戦に参加し、水源環境保全のため清掃活動を実施している。収集したゴミは、分別し名張市において処理を行った。
H21 5月18日	青蓮寺川稚鮎放流	青蓮寺湖上流	青蓮寺川香落漁業協同組合	20名	青蓮寺川稚鮎放流（2回目）に参加した。 250kg（約8万匹）の放流 稚鮎は和歌山の日高川漁協より購入されたもの
H21 6月6日	青蓮寺湖上流河川清掃	青蓮寺湖上流	青蓮寺川香落漁業協同組合	40名	青蓮寺川鮎解禁前の例年恒例の河川周辺の環境美化作業で、青蓮寺川香落漁業協同組合員、県及び水機構による清掃活動を行ったものである。
H21 6月7日	ササユリとセッコクの開花観察会	青蓮寺ぶどう農園よこの里山、行動の滝見晴らし台	青蓮寺地区	28名	恒例のササユリ観察から18年目。発芽数1,280本。28名の参加があった。
H21 7月19日	そに自然体験道場	青蓮寺湖親水広場（B地区）	国立曽爾青少年自然の家	50名	そに自然体験道場で、小学生1年～4年生30人、高校生5人、5班編制。 筏作り、湖面探索、魚釣りが行われ、青蓮寺ダムも巡視艇による湖上体験に協力した。
H21 8月22日	コスモアースコンシャスアクト クリーン・キャンペーン in 青蓮寺湖	青蓮寺ダム湖畔一帯	レディオキューブFM三重	497名	「地球を愛し、感じるこころ」をテーマに2001年から全国のFM38局の地域で毎年開かれている。青蓮寺ダムは昨年から会場になっている。 16グループに分かれてダム周辺の12カ所でゴミ回収を行い、その後ブドウ狩りと昼食で楽しんだ。
H21 11月21日	チョット変わった里山づくり	青蓮寺ぶどう農園よこの里山	青蓮寺地区	30名	平成19年から2ヶ年にわたり実施されてきた里山（しいたけ、ササユリ）一帯の雑木・竹の伐採及びその周辺除草活動に参加し、全体で約30名の参加があった。
H21 12月6日	しめ縄教室	青蓮寺公民館2階会議室	青蓮寺地区	15名	年末恒例行事の一つでしめ縄教室に参加し、ダム及び平尾寮のしめ縄を作った。
H22 2月4日	名張西高校マラソン	青蓮寺湖周辺	名張西高校	394名	毎年恒例のマラソン大会。 1、2年生560名（40名×7クラス×2学年） 男子：10km（高校～香落橋～弁天橋～ダム～高校） 女子：7km（高校～青蓮寺橋～弁天橋～ダム～高校）
H22 2月10日	第60回名張高校マラソン大会	青蓮寺湖周辺	名張高校	-	毎年恒例のマラソン大会。 1、2年生350名（35名×5クラス×2学年） 男子：11.7km（駐車場～香落橋～弁天橋～折戸橋～弁天橋～駐車場） 女子：8.2km（駐車場～香落橋～弁天橋～駐車場）

表 7.5.3-1 青蓮寺ダム周辺でのイベント等開催状況（平成18年～22年開催実績）

開催期間	行事等名	開催場所	主催者	参加人数	内容等
H22 2月18日	青蓮寺湖ぶどう組合40周年式典	青蓮寺レークホテル	青蓮寺湖ぶどう組合		青蓮寺湖ぶどう組合40周年式典に来賓として、猿楽所長が出席した。
H22 2月28日	第24回名張青蓮寺湖駅伝大会	左岸駐車場（本部） 青蓮寺湖一周	名張青蓮寺湖駅伝競技大会実行委員会	31名	毎年恒例の駅伝競走大会で、男子（20.4km）、女子（13.2km）、男女混成（13.2km）をリレーするものである。今回は、木津総より精鋭3チーム及び水機構全体で8チームが参加し、大会を盛り上げた。 ※男子28チーム（A21位、B26位）、女子6チーム、混成20チーム（RUN～DAM18位）
H22 4月18日	タケノコと草餅の会	青蓮寺ぶどう農園	青蓮寺区	200名	地元名士の山口繁一氏の主催で、恒例の20年続く名物行事「タケノコと草餅の会」が開かれて、約200名の参加があった。 タケノコ写真コンテストで北川所長応募写真が第3位となる。
H22 5月16日	名張クリーン大作戦2010	青蓮寺ダム湖周辺	名張クリーン大作戦2010実行委員会	6400名	毎年名張市全域で開催される名張クリーン大作戦に参加し、水源環境保全のため清掃活動を実施している。 収集したゴミは、分別し名張市において処理を行った。
H22 6月5日	環境美化活動	青蓮寺湖上流	青蓮寺川香落漁業協同組合	約30名	香落橋漁協～河鹿橋付近までの清掃活動に参加
H22 6月8日	香落橋漁協あまごの放流	青蓮寺湖上流	青蓮寺川香落漁業協同組合	約100名	青蓮寺川鮎解禁前の例年恒例の河川周辺の環境美化作業で、青蓮寺川香落漁業協同組合員、県及び水機構による清掃活動を行ったものである。
H22 10月3日	NBCチャプター三重第2戦ジップベイツCUP	青蓮寺湖	釣りショップかつき	23名	NBCチャプター三重第2戦ジップベイツCUPが青蓮寺湖で開催された。（バス釣り大会） 23名参加で、バス総数58匹であった。
H22 10月10日	イモ掘り大会	青蓮寺ぶどう農園	青蓮寺区	約50名	毎年恒例のイモ掘り大会。水資源機構からも若手職員も参加し、幼稚園以来だった者もいて、蒸かし芋、天ぷらなど楽しい一時を過ごすことができた。
H22 10月22日	安全祈願祭	左岸慰霊碑前	青蓮寺ダム	13名	「工事の安全」及び「災い防止」の目的で、勝手神社の瀧野宮司により安全祈願祭を執り行った。
H22 10月23日	チョット変わった里山づくり	青蓮寺ぶどう農園よこの里山	青蓮寺区	30名	地元名士の山口繁一氏の主催で、平成19年から3ヶ年にわたり実施されてきた里山（しいたけ、ササユリ）一帯の雑木・竹の伐採及びその周辺除草活動に参加し、全体で約30名の参加があった。
H22 10月24日	第9回みんなでおきつもおきつも名張遊歩10選ウォーキング	青蓮寺ダム湖一周コース（5km）	名張市体育指導委員協議会	約140名	みんなでおきつもおきつも名張遊歩10選ウォーキングに青蓮寺ダム湖一周が選ばれて、今回で最後のウォーキング。せっかくダム湖一周されるので、管理所横のモニュメント広場で、ダム概要の説明及び記念撮影をして携帯サイトへUPした。
H22 10月29日	国立曽爾青少年自然の家開所30周年記念式典	国立曽爾青少年自然の家	独立行政法人国立青少年教育振興機構	約300名	子供達の健やかな成長には自然体験、社会体験が欠かせない。こんな体験を実践する場として30年、370万人の青少年の道義観、倫理観、規範意識の基盤づくりに貢献してきた施設の記念式典に300人の方々と共に参加した。
H22 12月6日	しめ縄教室	青蓮寺公民館2階会議室	青蓮寺区	28名	地元名士の山口繁一氏の主催で、年末恒例行事の一つでしめ縄教室に参加し、ダム及び平尾寮のしめ縄を作った。



名張西高校マラソン (2010年2月4日)



名張青蓮寺湖駅伝競走大会 (2010年2月28日)



名張クリーン大作戦 (2010年5月16日)



タケノコと草餅の会 (2010年4月18日)



環境美化活動2010年5月17日)



香落橋漁協あまごの放流 (2010年6月8日)

図 7.5.3-1 青蓮寺ダム周辺でのイベント等開催状況

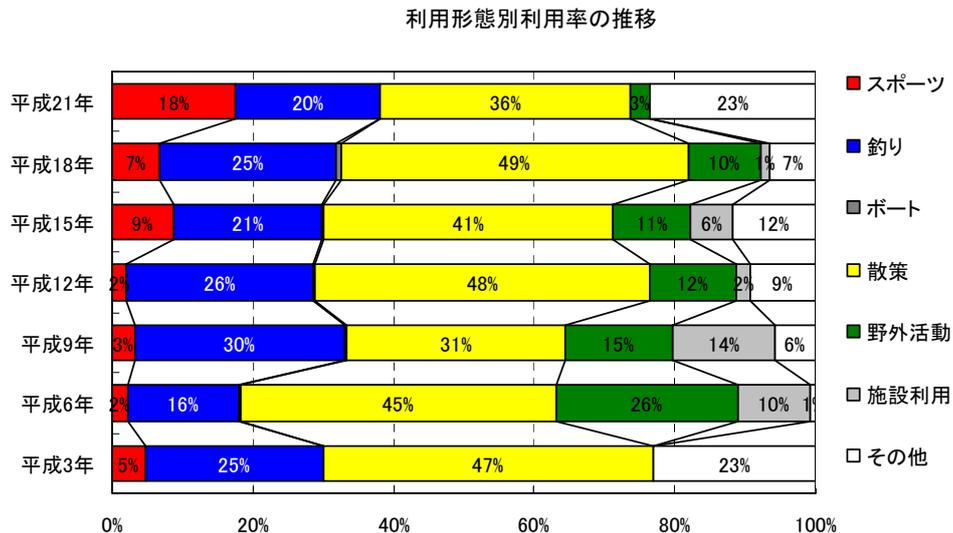
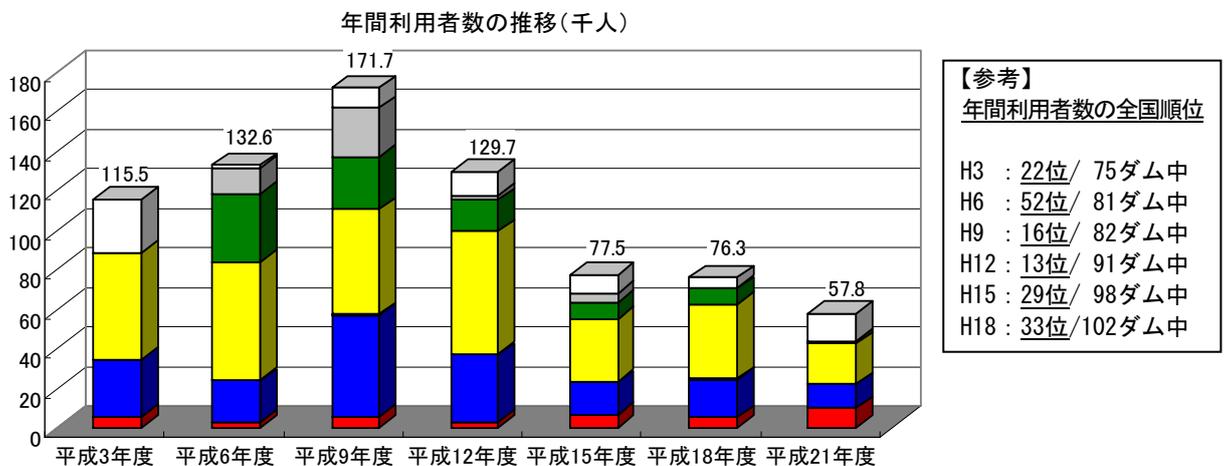
7.6 河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)結果

7.6.1 ダム湖利用実態調査

平成 21 年度に実施した河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)の調査結果は図 7.6.1-1 に示すとおりである。

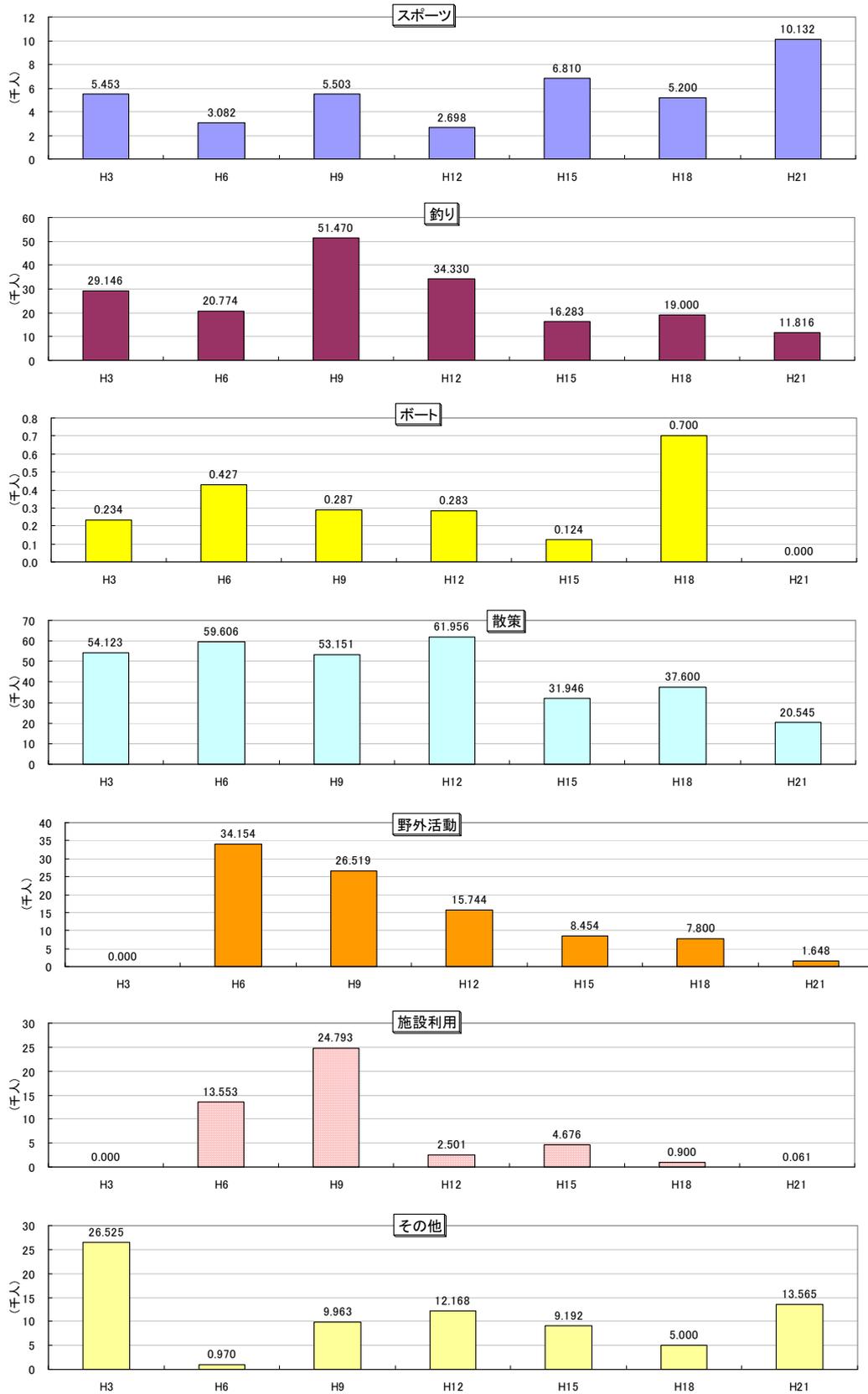
河川水辺の国勢調査(年間7日間のダム湖利用実態調査)から年間利用者数を推計すると、青蓮寺ダムには6万人前後の来訪者があると考えられる。利用形態としては、「スポーツ」、「散策」が多く、比較的「釣り」が多いのも、本ダムの特徴である。なお、「スポーツ」は、ジョギングやウォーキング、サイクリングにダム湖周辺を利用する人が多く見られた。

前回調査(H18)と比較して利用者数が減少している原因として、紅葉時期の調査日の気温が低く利用者が少なかったことと、貯水池上流端付近の県道工事に伴う交通規制の影響が考えられる。



野外活動：サイクリング、キャンプ、バーベキュー、写真撮影
 施設利用：レストラン利用
 その他：工事関係、レストラン店員

図 7.6.1-1 青蓮寺ダムの利用者の状況



野外活動：サイクリング、キャンプ、バーベキュー、写真撮影
 施設利用：レストラン利用
 その他：工事関係、レストラン店員

※ 平成3年度は、「野外活動」「施設利用」は、「その他」として集計されている。

図 7.6.1-2 青蓮寺ダム周辺の利用形態別利用者数の状況

1. 調査項目・調査時期

表-(1) 調査項目、目的および作成する様式

調査項目	目的	調査実施日等
利用者カウント調査	年間利用者数の推計に用いる基礎データ（サンプル日における利用者数）の収集。 あらかじめ設定した「ブロック区分※1」毎に調査を行った。	表-(2)に示す調査実施日（合計7日間）において実施。
利用者アンケート調査	ダム湖の利用目的、感想等の把握および年間利用者数の推計にあたっての基礎データの収集。	
イベント調査	ダム湖における利用者数の影響要因である各種イベントの開催状況および参加人数の把握。	調査実施年の3月1日から翌年2月28日までの1年間における状況を聞き取り調査等により実施。
施設利用者数調査 (H18, 21のみ実施)	ダム湖周辺にある施設での日別利用者数の把握	調査実施年の3月1日から翌年2月28日までの1年間において実施。

※1 ブロック区分：利用者カウント調査において利用者数の集計を行う地理的単位です。基本的には、調査対象区域内の利用環境を踏まえて、調査対象区域を複数のエリアに分割

表-(2) 調査実施日一覧

番号	季節区分	平日休日区分	各年の調査実施日等	備考
1	春季	休日	4月29日（祝日）	ただし、参加人数100人以上のイベント、悪天候、施設の休館日と重なったときは、適宜直近の日で設定
2			5月5日（祝日）	
3		平日	5月中旬の平日	
4	夏季	休日	7月最終日曜日	
5		平日	8月上旬の平日	
6	秋季	休日	11月3日（祝日）	
7	冬季	休日	1月上旬の休日	

2. 調査方法

(1) 利用者カウント調査

- ・調査区域内の利用者数を現地で実測する方法である。
- ・利用者数は、設定したブロック毎に、時間帯別、性別、年齢別、利用区分別に人数をカウント。
- ・原則として、日の出から日没までの間に2時間毎で実施する。
- ・各調査時刻における観測値の合計を一日の利用者数とみなす。

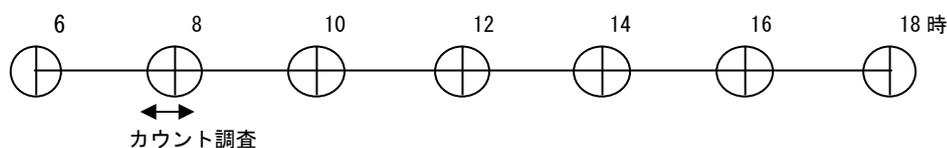


図-(1) 利用者カウント調査の実施間隔の考え方

表-(3) 利用形態区分表

利用形態区分		対象とする利用	
陸 上 利 用	散策、休息、花見等	観光・旅行、山菜とり、花見・紅葉・新緑見物、散策、遠足・ピクニック、休憩・トイレ利用 等	
	陸上スポーツ	テニス、サッカー、(ミニ)ゴルフ、マラソン・ジョギング、ゲートボール、サイクリング、野球、ソフトボール、その他の陸上スポーツ 等	
	その他	野外活動	キャンプ、写真撮影、写生、野外バーベキュー、昆虫採集、バードウォッチング、その他のアウトドア活動 等
		各種施設利用	レストラン、売店、ホテル、温泉、資料館、記念館、有料遊戯施設、〇〇センター(ミニSL、ゴーカート等) 等
	その他*	各種お祭り、催し物など、ダム見学等の学習活動、環境学習、コンサート、その他の陸上利用、仕事 等	
湖 面 利 用	釣 り	ボート利用	ボートに乗って釣り糸を垂れている人
		湖岸	湖岸で釣り糸を垂れている人
	遊 覧	手こぎボート、サイクルボート、遊覧船	
	水上スポーツ	ヨット、水上スキー、ウインドサーフィン、漕艇、カヌー、その他の水上スポーツ	
	その他	水泳、水遊び、その他の湖面利用	

*イベントは、その内容によって利用区分することとし、例えばスポーツ大会が野球大会、カヌー大会のように他の利用区分にまたがる場合は、野球を陸上スポーツ、カヌーを水上スポーツとする。

(2) 利用者アンケート調査

本調査は、利用者に対して直接質問し、回答を得ることにより実施。調査実施日は、利用者カウント調査実施日(7日間)とする。必要なアンケート対象者数(最少サンプル数)は、各調査実施日において20人以上を目標とした。

(3) イベント調査

本調査は、ダム管理者や施設の運営主体等から、調査区域内において開催されたイベントについて、聞き取りを行うことにより調査を実施した。

表-(4) 対象とするイベントの考え方

対象とするイベント等	
期 間	当該年3月から翌年2月の1年間において開催されたイベント等とした。
時 間 帯	対象とする時間帯は特に制限しない。
規 模	参加人数が概ね100人以上となるイベント等とした。
種 類 等	対象とするイベント等の種類や実施・運営主体等は特に制限しない。

3. 年間利用者数の推計方法

各季節別に実施した合計7回の調査(カウント)結果とイベント調査結果をもとに、ダム毎に1年間のダム湖利用者数の推計を行った。

年間の利用者数の推計に当たっては、季節、休日と平日の違いを考慮し、各季節の休日、土曜日、平日の利用者数(実測値を基本とする)を原単位とし、それに各季節の休日・土曜日・平日の日数を乗じた推計値にイベント調査結果を加えることにより、年間利用者数の推計を行った。

なお、平成9年度以前の調査については、イベント調査は行われていないため、上記のイベント人数の加算は行っていない。

【曜日係数】

H15まで:各季節の土曜日および秋季・冬季の平日については実測値がないため、平成4年度に行った補足調査結果より得られた全国平均の比率を乗じる(土曜日=0.37×休日、平日=0.18×休日)ことにより、原単位を求めた。

H18 :H15まで使用した曜日係数は平成4年に設定されたものであり、その間に休暇の取得等に関する社会的な考え方や制度が変化した可能性が考えられたため、H18に新しい曜日係数設定を目的とした追加調査を行った。結果、平成18年は、土曜係数:0.41、平日係数:0.22とされた。

表-(5) 平成21年度青蓮寺ダム年間利用者数の推定【平成18年度の係数を使用して試算】

季節	曜日区分	調査日別利用者数(実測値)	原単位			日数			季節別利用者数(推計値)	イベント参加人数(実測値)	年間利用者数(推計値)
			休日	平日	土曜(*1)	休日	平日	土曜			
春季	休日1	395	301(*2)	190	123	19	60	13	18,723	7,497	57,767
	休日2	207									
	平日	190									
夏季	休日	398	398	130	163	14	65	13	16,143		
	平日	130									
秋季	休日	250	250	55(*3)	103	19	59	13	9,328		
冬季	休日	171	171	38(*3)	70	17	60	13	6,076		

*1:休日×0.41

*2:春季休日1と春季休日2の平均値

*3:休日×0.22

7.6.2 利用者特性

ダム湖利用実態調査時に行った利用者アンケート調査の結果から、青蓮寺ダム利用者の特性を整理した。

アンケートの回答者数は、以下のとおりである。

平成18年度	平成21年度
115人	117人

1) 利用者の属性

利用者層は、平成18年度は30歳代の利用者が最も多く、次いで40歳代、60歳代となっていた。平成21年度は60歳代が最も多く、次いで30歳代、40歳代となっている。

近年は、20歳代の利用者数が減少するとともに、70歳以上の利用者が増加している。60歳代と70歳以上の主な利用目的は、散歩やウォーキングである。

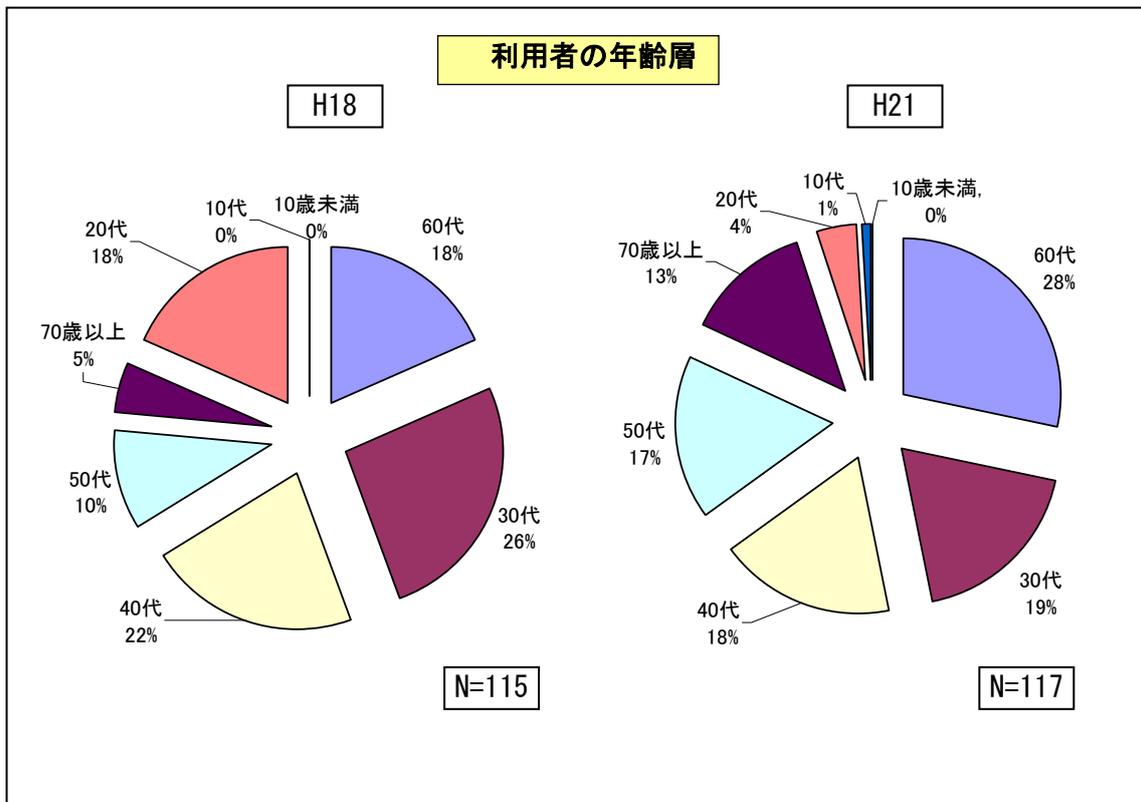


図 7.6.2-1 利用者の年齢層

2) 利用者の居住地等

来訪者の居住地は三重県が多く、大阪府、奈良県が続く。上位3府県で約9割を占めている。また、少数ながら東京都、長野県といった遠方からの来訪者もみられる。

市町村別では三重県名張市が最も多く、平成18年度は49人、平成21年度は64人となっている。なお、名張市からの利用者においては、約6割が60歳以上であり、利用目的は釣り、散歩やウォーキングが上位となっている。

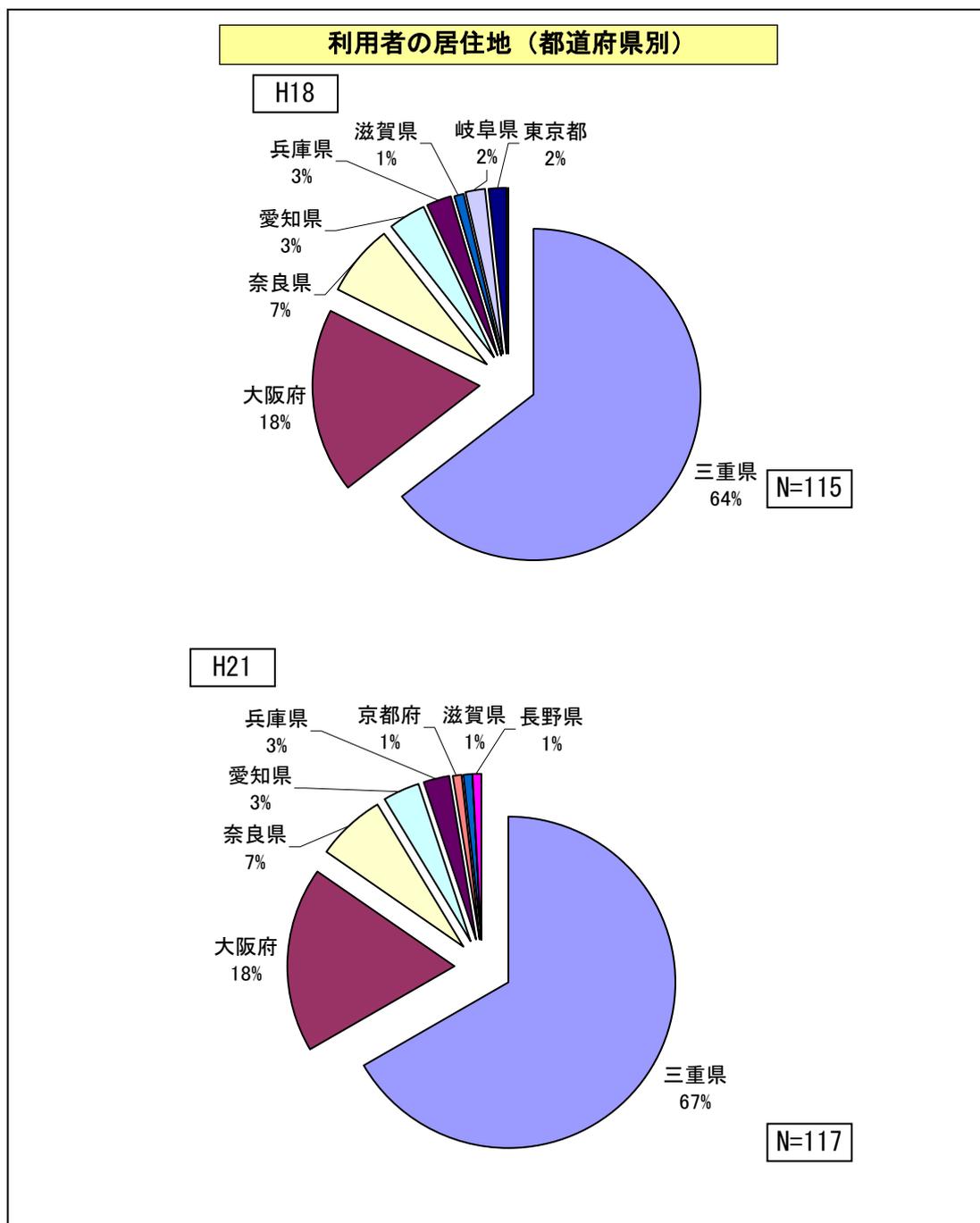
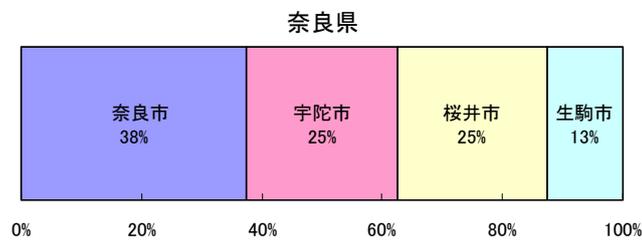
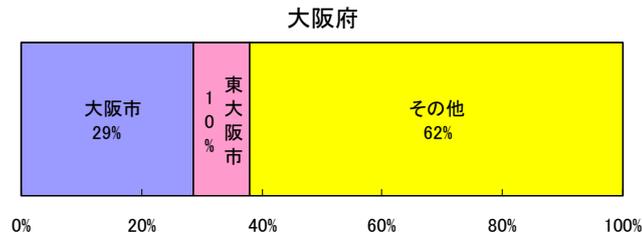
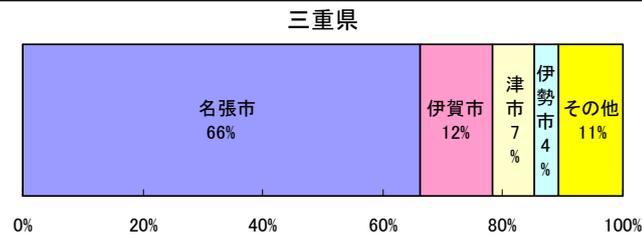


図 7.6.2-2 利用者の居住地等（都道府県別）

利用者の居住地（上位3府県の市町村別内訳 上位4位まで）

H18



H21

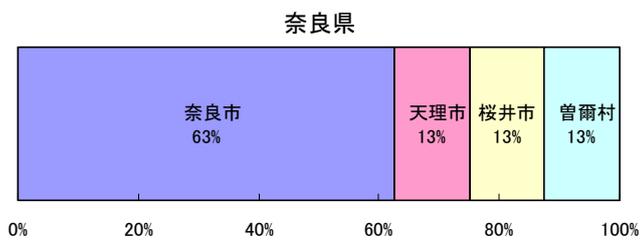
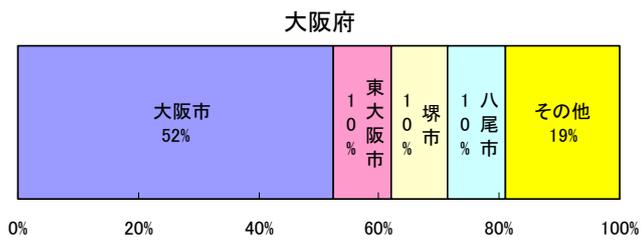
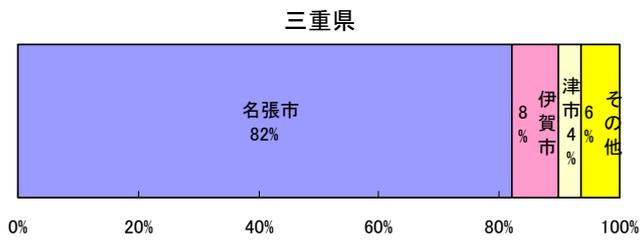


図 7.6.2-3 利用者の居住地等（市町村別）

青蓮寺ダムを訪れた利用者のうち、約8割をリピーターが占めている。

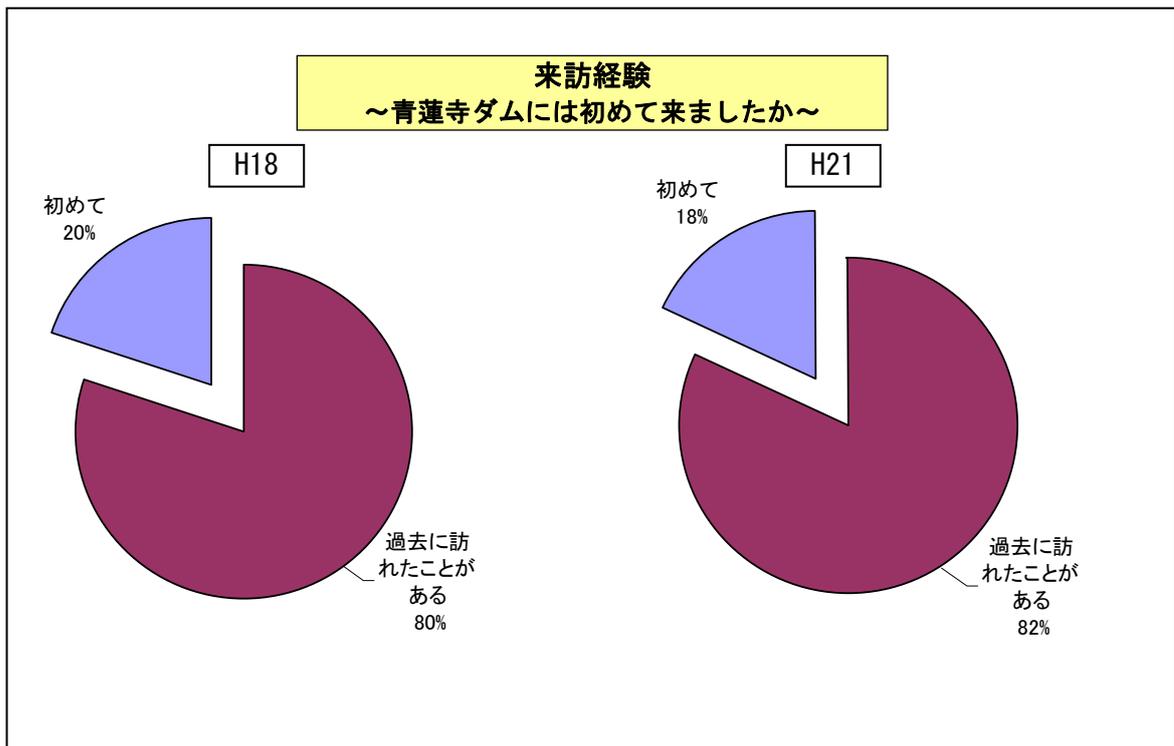


図 7.6.2-4 利用者の来訪経験

平成18年度は家族、友人等と訪れる人が最も多くそれぞれ約3割を占めていたが、平成21年度は友人等と訪れる人が減り、単独で訪れる人が半数を占めるまで増加している。

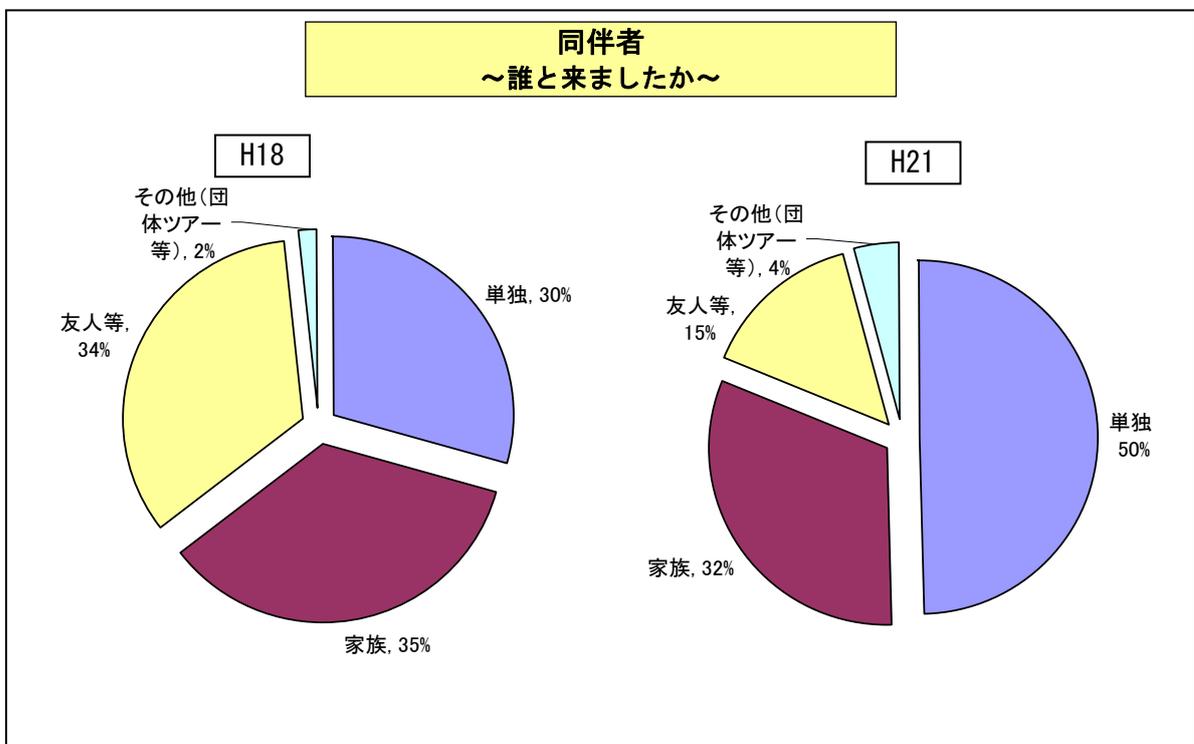


図 7.6.2-5 利用者の同伴者

3) 来訪目的

青蓮寺ダムを訪れた主な目的は、平成18年度は「レジャー」が最も多く、次いで「スポーツ」となっている。平成21年度調査は「レジャー」が減少し「その他」の占める割合が増加している。

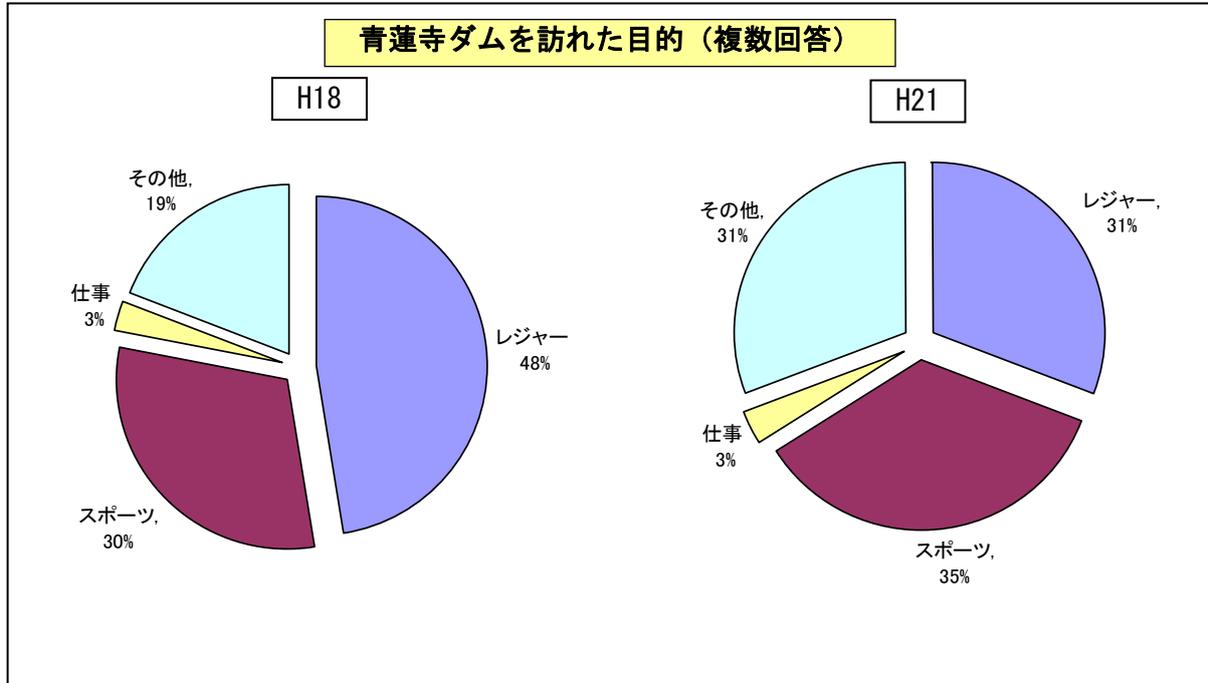


図 7.6.2-6 来訪目的

4) 利用者の感想

青蓮寺ダムを利用した人の感想は、「満足」「まあ満足」が約6～7割を占めている。「やや不満」「不満」と回答した人は6%程度で、「トイレを増設して欲しい」「雨がると屋根のある場所が少ない」といった施設に対する不満、「ゴミが多い」といった利用者マナーに関する不満があった。また、釣りに関する感想が多いのは、青蓮寺ダムの特徴と言える。

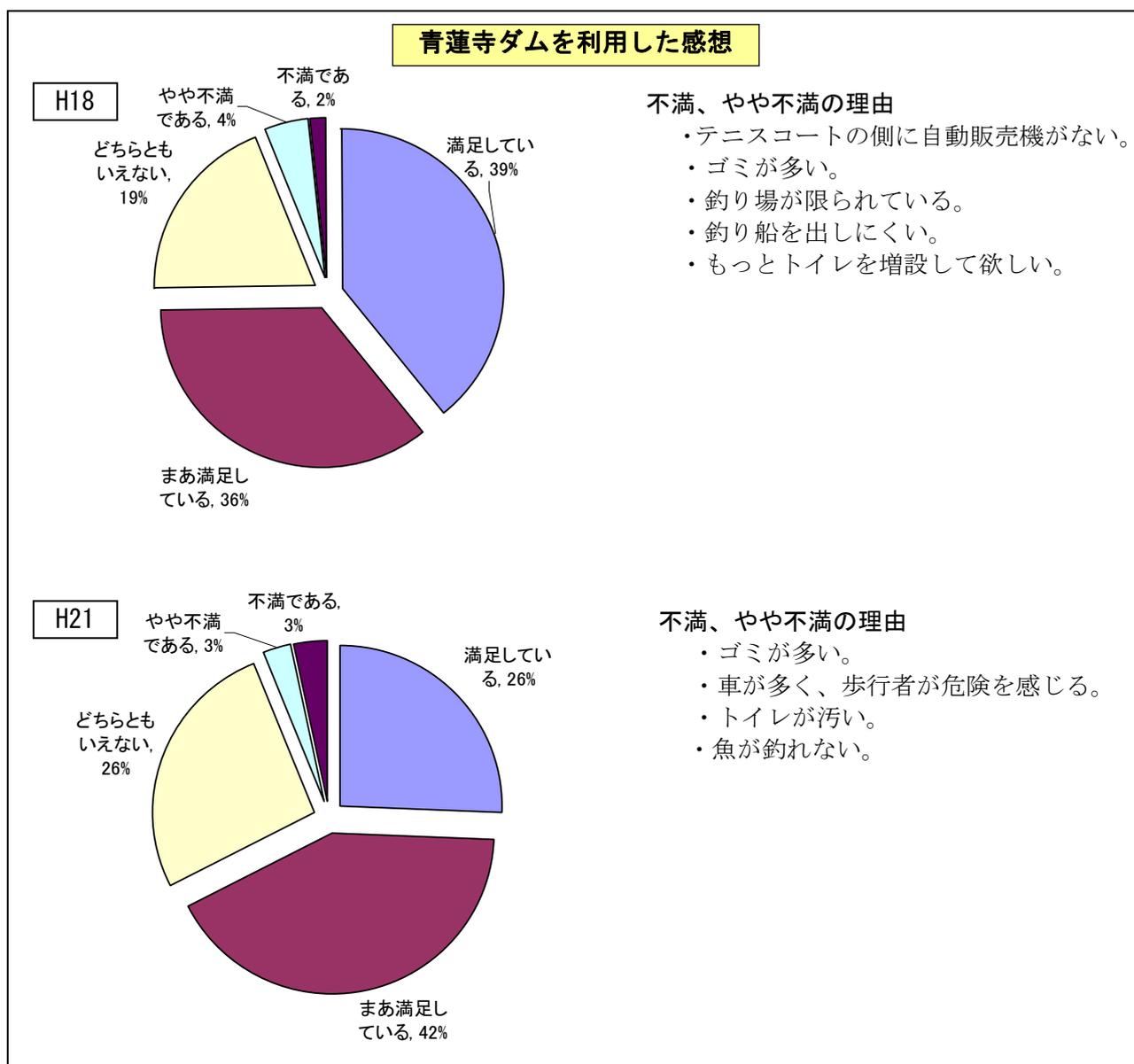


図 7.6.2-7 利用者の感想

水源地域ビジョン策定時に青蓮寺ダムに対する意識調査がアンケート形式で実施されており、その結果から青蓮寺ダムに対する住民の意見を整理する。

○水源地域での青蓮寺ダムに対する住民の意識調査（平成15年度実施）

（対象範囲名張市、曾爾村、御杖村、美杉村）

サンプル数：約1,700

アンケート回収数655（回収率は約40%）

回答者の男女比は、男性約50%、女性約40%

回答者の年齢は、40～60歳が多く、約半数

(1) 水源地域での青蓮寺ダムに対する住民の意識等

- ・青蓮寺ダムは水源地域住民にとって、短時間の利用（立ち寄り利用）の場として活用される傾向にあり、半日～1日かけて行うレクリエーションやイベントへの参加の場としてはあまり活用されていない。
- ・青蓮寺ダム周辺施設に対する評価は、全体的に「わからない」と回答している人が多いことから、施設が水源地域住民に充分認知されていないことが伺われる。その中で、区域別の満足度を見ると、民間施設の「青蓮寺レークホテル」の評価が高く、周辺整備施設の中では「A地区（パノラマゾーン）」の評価が高い結果となっている。
- ・水源地域住民の約80%は、地域活動等への参加経験がない。しかし、現在既に地域の清掃や草刈りなどの活動は進められている。
- ・全体の約50%が地域への親しみや愛着を感じていると回答している。

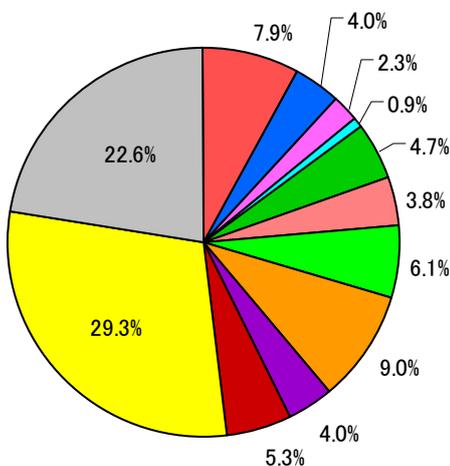
なお、青蓮寺ダムではより多くの人にダム周辺を利用してもらえるよう、不法投棄対策やキロポストの設置等を行っている。

◎青蓮寺ダム周辺の利用頻度

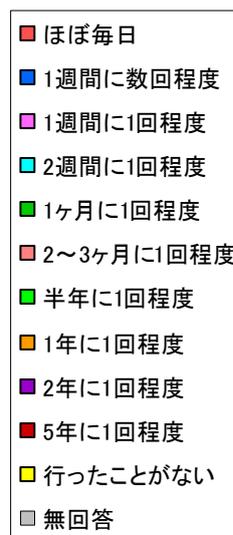
項目	回 答											無回答	合 計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
短時間の利用	52	26	15	6	31	25	40	59	26	35	192	148	655
半日～1日のレクリエーション利用	45	14	5	4	6	6	15	21	14	34	298	193	655
イベント参加	33	7	4	3	2	2	4	20	9	19	342	210	655
青蓮寺ダムの見学	55	20	13	1	7	8	9	31	19	37	283	172	655

凡 例	1. ほぼ毎日	2. 1週間に数回程度	3. 1週間に1回程度
	4. 2週間に1回程度	5. 1ヶ月に1回程度	6. 2～3ヶ月に1回程度
	7. 半年に1回程度	8. 1年に1回程度	9. 2年に1回程度
	10. 5年に1回程度	11. 行ったことがない	

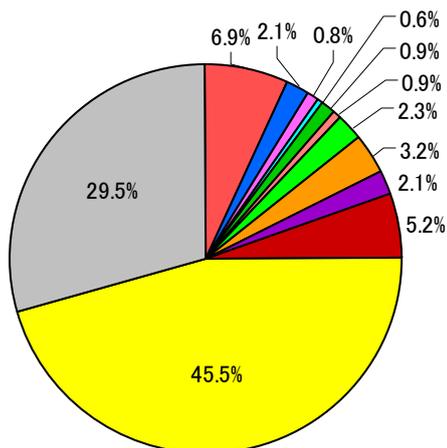
○短時間の利用



・回答者の約半数が立ち寄り型の利用を行ったことがあると回答している。
利用頻度については、特に偏りが無い。

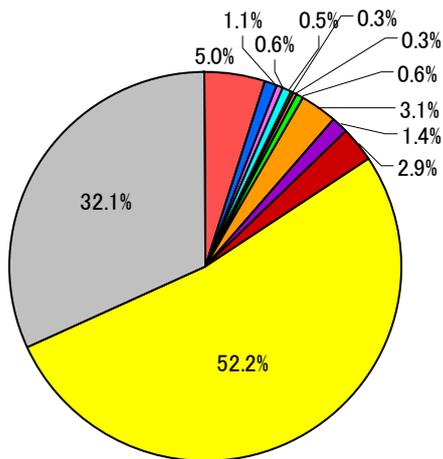


○半日～1日のレクリエーション利用

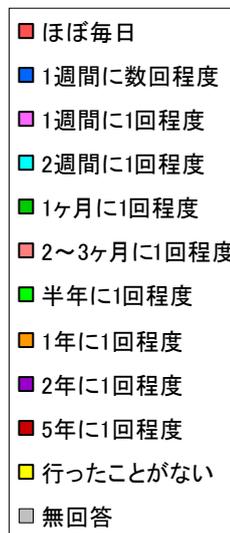


・約半数が「行ったことがない」と回答しており、青蓮寺ダムが半日～1日かけて行うレクリエーションの場としてあまり利用されていないことが伺える。

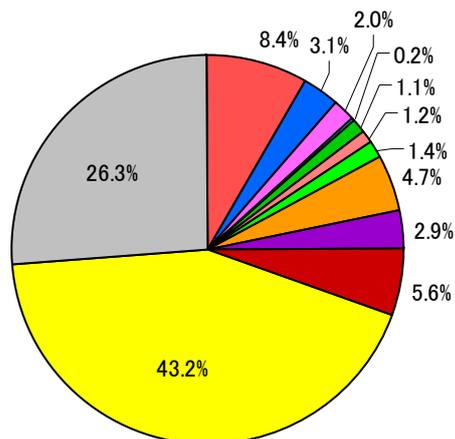
○イベントへの参加



・全体の 50%以上が「行ったことがない」と回答しており、水源地域住民がイベントに充分参加していない状況が伺える。



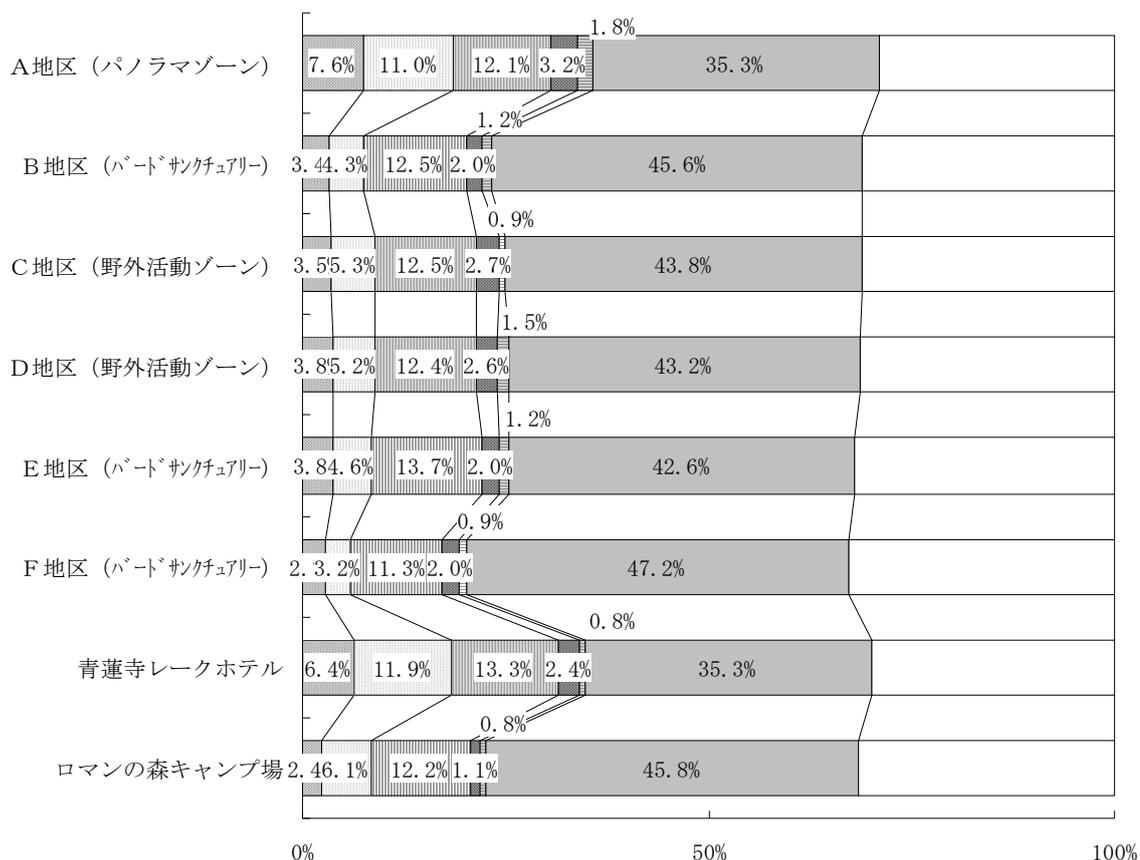
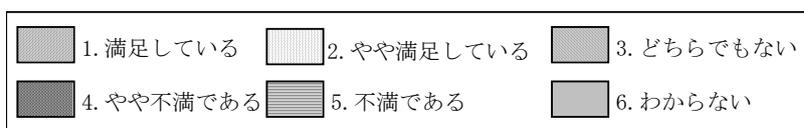
○青蓮寺ダムの見学



・全体の約 30%は、何度か青蓮寺ダムへの見学には行っているが、その数を上回る全体の約 40%は、「行ったことがない」と回答している。

◎青蓮寺ダム周辺施設等の満足度

項目	回 答						無回答	合 計
	1	2	3	4	5	6		
A地区（パノラマゾーン）	50	72	79	21	12	231	190	655
B地区（ハート・サクチュアリー）	22	28	82	13	8	299	203	655
C地区（野外活動ゾーン）	23	35	82	18	6	287	204	655
D地区（野外活動ゾーン）	25	34	81	17	10	283	205	655
E地区（ハート・サクチュアリー）	25	30	90	13	8	279	210	655
F地区（ハート・サクチュアリー）	18	21	74	13	6	309	214	655
青蓮寺レークホテル	42	78	87	16	5	231	196	655
ロマンの森キャンプ場	16	40	80	7	5	300	207	655
全 体（ 合 計 ）	221	338	655	118	60	2219	1629	

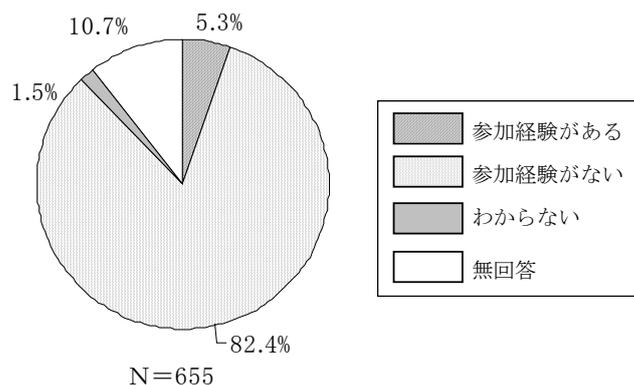


- ・全体的に「わからない」と回答している人が多く、貯水池周辺の施設が水源地域住民に充分認知されていないことが伺われる。
- ・区域別の満足度を見ると、民間施設である「青蓮寺レークホテル」の評価が高い。また、周辺整備施設の中では「A地区（パノラマゾーン）」の評価が高い結果となっている。

◎地域活動の状況（比奈知ダム流域含む）

○地域活動への参加割合

地域活動への参加	回答者数
参加経験がある	35人（5.3%）
参加経験がない	540人（82.4%）
わからない	10人（1.5%）
無回答	70人（10.7%）
合計	655人（100.0%）



○地域活動への参加回数

参加回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	平均参加回数 (単純平均)
回答者数	22	8	4	0	0	3	1.8

○活動名称や活動内容

（清掃活動や草刈り等）

- ・名張クリーンハイキング
- ・クリーンキャンペーン
- ・環境クリーンアップ
- ・青蓮寺ダム周辺の空き缶拾いなどの清掃や草刈り
- ・名張川支流の清掃と草刈り
- ・地区ヨシ刈り
- ・ヨシゴ刈り（地域環境整備運動）
- ・御杖村金城作業（河川除草）

（イベント関連）

- ・美杉村桜まつり
- ・美杉村文化まつり
- ・美杉村夏まつり

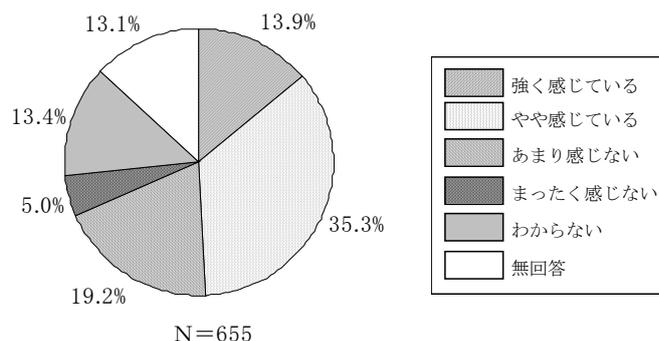
（その他）

- ・プランター設置・植え替え作業
- ・桃俣活性化推進委員会（水源地周辺植林維持）
- ・水質保全

- ・水源地域住民の約8割は、地域活動等への参加経験がないとの結果になっている。
- ・現在行われている活動内容は、地域の清掃や草刈りが多い。その他にもイベントの運営手伝いや植栽等の活動も行われている。

◎地域への親しみ、愛着（比奈知ダム流域含む）

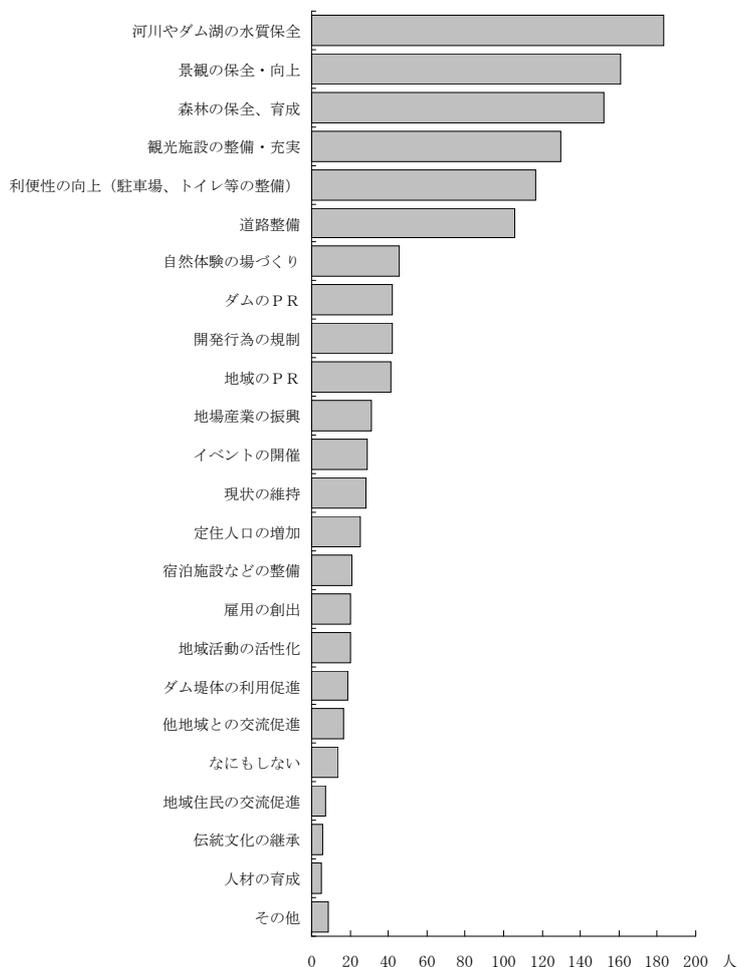
地域への愛着度	回答者数
強く感じている	91人（13.9%）
やや感じている	231人（35.3%）
あまり感じない	126人（19.2%）
まったく感じない	33人（5.0%）
わからない	88人（13.4%）
無回答	86人（13.1%）
合計	655人（100.0%）



- ・水源地域住民の地域への親しみ、愛着は、「強く」や「やや」を合わせると全体の約50%に達する。

◎青蓮寺ダム周辺地域の活性化を図る上での重要な内容

項目	回答数 (複数回答)
河川やダム湖の水質保全	183人
景観の保全・向上	161人
森林の保全、育成	152人
観光施設の整備・充実	130人
利便性の向上（駐車場、トイレ等の整備）	117人
道路整備	106人
自然体験の場づくり	46人
ダムのPR	42人
開発行為の規制	42人
地域のPR	41人
地場産業の振興	31人
イベントの開催	29人
現状の維持	28人
定住人口の増加	25人
宿泊施設などの整備	21人
雇用の創出	20人
地域活動の活性化	20人
ダム堤体の利用促進	19人
他地域との交流促進	17人
なにもしない	14人
地域住民の交流促進	7人
伝統文化の継承	6人
人材の育成	5人
その他	9人
無回答	208人
合計	1465人



- ・水源地域住民は、「河川やダム湖の水質保全」「景観の保全・向上」「森林の保全、育成」など地域の自然環境を適切に保全していくことが地域活性化に向けて最も重要と考えていることが伺える。
- ・一方、「観光施設の整備・充実」「利便性の向上」「道路整備」が上記の内容に続いて多い。

7.7 その他関連事項の整理

(1) 青蓮寺ダム水源地域の特性分析

青蓮寺ダム水源地域の現状から、地域の特徴や資源、ポテンシャルと、地域の活性化に向けた課題点を抽出・整理した。

① 地域の特徴や資源、ポテンシャル

i. 水源地域全体の特徴や資源、ポテンシャル

■優れた自然景観を有する自然環境が形成されている。

青蓮寺ダム水源地域は、「室生・赤目・青山国定公園」や「三重県立赤目一志峡自然公園」の区域に指定されており、美しい溪谷などの自然景観を有する自然環境が形成されている。

■集客力のある観光資源が近隣に立地している。

青蓮寺ダム水源地域内やその近隣には、知名度の高い「赤目四十八滝」や「曽爾高原」など、豊かな自然環境を活かした様々な観光資源が立地している。

■水源地域が2つの県をまたいで形成されている。

青蓮寺ダム水源地域は、三重県と奈良県の県境に位置している。そのために青蓮寺ダムは、県境を越えた多くの自治体や住民が関わりを持っているダムである。

ii. 青蓮寺ダム周辺地域の特徴や資源、ポテンシャル

■市街地に近接した位置にある。

青蓮寺ダムの約3km西方には、人口約8万人を有する名張市の市街地が広がっており、青蓮寺ダムやダム湖は、市街地に近接した立地条件を持っている。

■ダムやダム湖へのアクセス利便性が高い。

地域の幹線道路である県道名張曽爾線が、青蓮寺ダムの堤体付近や貯水池湖岸を通り、青蓮寺ダムやダム湖へのアクセス利便性は高い。

■様々なレクリエーションを行うことのできるエリアが形成されている。

青蓮寺ダム周辺には、周辺環境整備事業による公園等に加え、宿泊施設や観光農園など民間による観光・レクリエーション施設等も整備されており、全体として様々なレクリエーションを行うことのできるエリアとなっている。

② 地域活性化に向けた課題点

i. 水源地域全体での課題点

■上流域での過疎化、高齢化が進んでいる。

青蓮寺ダム・比奈知ダム水源地域の上流域を構成する曾爾村、御杖村及び美杉村は、近年、過疎化・高齢化が進展しつつあり、地域の活性化を図る上での課題となっている。

ii. 青蓮寺ダム周辺地域での課題点

■レクリエーション施設等が貯水池周辺に点在しており、連携が図りにくい。

青蓮寺ダム周辺地域では、観光レクリエーション施設が貯水池周辺に分散して立地しているため、施設間の連携が図りにくい。

■湖面利用が図りにくい。

青蓮寺ダム貯水池は、洪水調節のために水位が変動することに加え、湖岸の地形が急峻で湖面にアプローチできる場所が限られるなど、湖面利用が図りにくい。

(2) 文化財等

青蓮寺ダム水源地域周辺には、国指定を受けた史跡美旗古墳群などの文化財が点在している。

■ 名張市国指定文化財一覧

区分	指定種別	名 称
国	彫刻	木造聖観音立像
		木造十一面観音立像
		木造不動明王立像
	工芸	木造黒漆厨子
		石燈籠
史跡	美旗古墳群 夏見麿寺跡	
名勝	赤目の峡谷	
天然記念物	オオサンショウウオ	

出典：2002年刊行 名張市統計書

■ 曾爾村国指定文化財一覧

区分	指定種別	名 称
国	天然記念物	屏風岩、兜岳、および鎧岳
県	無形文化財	曾爾の獅子舞
	天然記念物	御葉付イチョウ
		ヒダリマキガヤ群落

出典：奈良県教育委員会文化財保存課資料

■ 御杖村国指定文化財一覧

区分	指定種別	名 称
県	建造物	安能寺鐘楼門
	天然記念物	神末のカヤの巨木林

出典：奈良県教育委員会文化財保存課資料

また、青蓮寺湖周辺は、上流の香落溪、赤目四十八滝等とともに、全域が「室生・赤目・青山国定公園」に指定されている。また、国定公園に重複するように「三重県立赤目一志峡自然公園」も指定されており、優れた自然景観が形成される区域となっている。

(3) ダム湖周辺における不法投棄対策

青蓮寺ダムは、市街地に近いことと、ダム湖周辺の地形から不法投棄が多いダムである。不法投棄の早期発見・早期対応を目的に、管理所職員による貯水池周辺のパトロールを、週3回実施している。

また、名張警察署と連携し、投棄者の特定も図っている。

さらに、毎年名張市全域で開催される名張クリーン大作戦に参加し、水源環境保全のため清掃活動を実施している。



ダム湖周辺の不法投棄



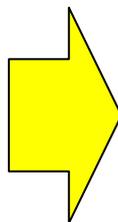
ダム湖周辺に啓発看板を設置



パトロールの状況



不法投棄が多い箇所に柵を設置



不法投棄が多い箇所の竹林を伐採

(4) キロポスト設置

青蓮寺ダムでは、不法投棄や危険箇所を分かり易くするためのダム管理標識として、また、青蓮寺ダム湖周辺へ訪れる方々への情報提供や青蓮寺ダム湖周辺の環境保全などを目的に、「道路距離標看板 キロポスト」をダム湖周辺道路付近約5 km（45ヶ所）に設置した。

実施日：平成22年10月19日～10月20日

実施場所：青蓮寺ダム湖周辺

実施費用：約270,000円

キロポストの設置においては、設置費用を極力おさえることとし、地元役員の方々にも賛同を得ながら、設置当日には役員の方々とともに設置した。



7.8 まとめ

青蓮寺ダムは昭和 45 年に完成して 40 年以上を経過した古いダムであり、このため、ダムの認知度や利用経験が豊かであるものと考えられ、前項までの内容や国勢調査結果を踏まえ以下のように評価する。

- ・青蓮寺ダム周辺には、「赤目四十八滝」や「曾爾高原」等自然を中心とした観光資源が分布している。
- ・多くの人々が水源地域及びダム周辺を訪れているが、近年は減少傾向にある。
- ・水源地域ビジョンの活動として、駅伝競走、カヌー教室、クリーン大作戦等のイベントの開催など、地域活性化のとりくみが行われている。

以上より

ダム管理者として、水源地域ビジョンにおける地域活性化のための方策を支援しており、今後もこれらの地域と連携した活動を継続して推進していく。